

町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ

2013.3

埼玉県入間郡三芳町教育委員会

はじめに

三芳町は、都心から僅か 30km の位置にありながら、武蔵野の面影を偲ぼせる雑木林が随所に広がる、緑豊かな町であります。また、県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」や県指定有形民俗文化財「竹間沢車人形」などをはじめ、数多くの文化財を伝え残しています。

昭和 40 年代までは、畑作中心の純農村地帯として緩やかに発展してきましたが、高度成長期からバブル期にかけて、住宅開発や工場、倉庫等の進出によりその姿は急速な発展、変貌を遂げてきました。

このような都市化の進展や経済的な発展の代償として、緑地や文化財が失われてきたのも事実であり、三芳町教育委員会としては、文化財保護を教育行政の重点施策に位置づけて、先人たちが培ってきた様々な文化や歴史を、将来への発展の礎となる貴重な遺産として保護し、伝え残していく努力を続けています。とりわけ、町内に残された 33 箇所の遺跡すなわち埋蔵文化財は、開発により直接的に失われていく文化財ですが、幸いにして国および県の補助を得て記録保存のための発掘調査を実施することができました。

ここに刊行する町内遺跡発掘調査報告書Ⅷには、国庫・県費補助事業として平成 21 年度から平成 23 年度の 3 カ年にわたり実施した町内遺跡発掘調査事業の成果が記録されています。

開発に先立つ発掘調査が実施され、本書が刊行できますことは、ひとえに関係各位のご理解とご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。




また、本書が多くの方々の埋蔵文化財に対する理解と関心を深め、郷土の歴史・文化遺産を伝え残し、三芳町がより一層の発展を遂げていくための一助となることを願ってやみません。

三芳町教育委員会
教育長 桑原孝昭

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡三芳町に所在する三芳町町内遺跡の発掘調査成果の報告書である。
発掘調査および整理事業は三芳町教育委員会が主体となり、国庫・県費補助事業として平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年間に実施した調査成果をまとめた。
2. 本書に収録した発掘・試掘確認調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業として、
平成 21 年度に総額 3,045,748 円(国庫 1,500,000 円・県費 500,000 円・町費 1,045,748 円)、
平成 22 年度に総額 2,741,600 円(国庫 1,350,000 円・県費 450,000 円・町費 941,600 円)、
平成 23 年度に総額 2,725,316 円(国庫 1,350,000 円・県費 450,000 円・町費 925,316 円)
をもって実施したものである。本書の作成は、平成 24 年度国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業の一環として実施した。
3. 自然科学分析については、平成 23 年度の町費事業として業務委託を行った。
4. 平成 21 年度から平成 23 年度までの発掘・試掘確認調査組織は下記の通りである。
調査主体者 三芳町教育委員会 教育長 柳 榮治(平成 23 年 1 月 13 日まで)
教育長職務代理者 教育総務課長 関 文雄(平成 23 年 3 月 31 日まで)
教育長 桑原孝昭(平成 23 年 4 月 1 日より)
調査事務局 生涯学習課 課 長 金子 明(平成 21 年度まで)
社会教育課 課 長 鈴木義雄(平成 22 年度より)
調査担当係 文化財保護係 係 長 柳井章宏
同 主 任 中村 愛
同 主 任 大久保淳(平成 22 年度まで)
同 主 任 越前谷理(平成 23 年度より)
5. 平成 24 年度の調査組織は下記の通りである。
調査主体者 三芳町教育委員会 教育長 桑原孝昭
調査事務局 文化財保護課 参 事 松本富雄(平成 24 年 10 月 1 日より)
課 長 松本富雄(平成 24 年 9 月 30 日まで)
課 長 鈴木義雄(平成 24 年 10 月 1 日より)
調査担当係 文化財保護係 係 長 間仁田忠男
同 主 査 小沼美典
同 主 任 大久保淳
同 主 任 越前谷理
同 主 事 内藤友映
6. 出土遺物及び遺構図面類は、三芳町教育委員会が保管する。
7. 遺構写真撮影は大久保淳及び越前谷理が行った。
8. 本書の執筆、挿図・図版作成、編集は大久保及び越前谷が行った。遺物実測図作成・拓本・写真撮影は(有)アルケアリサーチに業務委託を行い、IV自然科学分析はパリノ・サーヴェイ(株)に業務委託を行った。また、作成にあたっては松本富雄の協力を得た。
9. 本書に掲載した図版等の読み方は、それぞれの図で示した。
10. 本書に掲載した地図は、三芳町発行の 1/2,500、1/10,000 である。
11. 発掘現場での遺構・遺物の記録、整理事業での図版作成は、(株)CUBIC 社製「遺構くん Cubic」を使用した。
12. 本書の作成・編集には、主に Adobe 社製 Illustrator CS5、Photoshop CS5、InDesign CS5、Acrobat 9 を使用した。
13. 発掘調査及び出土資料の整理・報告にあたり、下記の諸氏・関係機関にご教授・ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同、敬称略)
石塚宏明、尾形則敏、加藤秀之、亀田直美、隈本健介、栗島義明、越村篤、小菅将夫、諏訪間順、渋谷寛子、鈴木一郎、高崎直成、坪田幹男、徳留彰紀、中岡貴裕、永井智教、鍋島直久、西井幸雄、根本靖、野口淳、早坂廣人、藤波啓容、堀善之、森野譲、柳沢健司、和田晋治、埼玉県生涯学習文化財課、ふじみ野市教育委員会、富士見市教育委員会、(有)アルケアリサーチ、(株)CUBIC、(株)東京航業研究所、パリノ・サーヴェイ(株)
14. 発掘調査ならびに整理事業従事者は下記のとおりである。(敬称略)
有坂米子、今井武久、大下潤子、荻原雅夫、菊池奈保美、木村智則、黒岩裕二、佐海由美子、佐藤利秀、佐藤洋子、鈴木利恵子、武政潤一、田中夫味子、谷禎三、田村早苗、富田茂夫、仲井キヨ子、永見武男、野上吉樹、林文夫、平田小百合、堀田敦子、保谷野未来、松本アキヨ、黛佳代子、向竹之、望月正一、森谷等、吉田悦子、山田あつ子、渡邊愛

凡 例

1. 本書で使用した図面の方位は全て座標北であり、測量は日本測地系に基づいている。
2. 土層断面図中の  は第 1 黒色帯、 は第 2 黒色帯上層、 は第 2 黒色帯下層を示す。
3. 石材の略号は下記の通りである。
チャートー Ch ガラス質黒色安山岩ー An 頁岩ー Sh

目 次

はじめに

凡例・目次・挿図目次・表目次

写真図版目次

I. 序章	1
1. 三芳町町内遺跡について	1
2. 遺跡の立地と環境	2
II. 年度ごとの調査概要	4
1. 発掘調査	4
2. 試掘確認調査	4
III. 各遺跡の調査	6
1. 俣埜遺跡O地点の調査	6
1) 遺跡の立地と概要	6
2) 調査の概要	6
3) 遺構と遺物	6
2. 三富開拓地割遺跡第 10 地点・ 第 11 地点の調査	14
1) 調査の概要	14
2) 遺構と遺物	14
3. 三富開拓地割遺跡第 13 地点・ 第 14 地点の調査	16
1) 調査の概要	16
2) 遺構と遺物	16
4. 三富開拓地割遺跡第 15 地点の調査	21
1) 調査の概要	21
2) 調査区周辺地形	21
3) 遺構と遺物	22
IV. 自然科学分析	25

第 7 図 出土石器 (2/3)	11
第 8 図 出土土器 (1/3)	11
第 9 図 1 号・2 号・3 号集石平面図・断面図 (1/60)	12
第 10 図 1 号溝跡平面図・断面図 (1/60)	13
第 11 図 第 10・11 地点遺構全体図 (1/600)	14
第 12 図 三富開拓地割遺跡調査位置図 (1/10,000)	15
第 13 図 第 13 地点遺構全体図 (1/160)・ 遺構土層断面図 (1/60)	17
第 14 図 第 13 地点遺構土層断面図 (1/60)	18
第 15 図 文久 3 年「上富村地割絵図」 (多福寺所蔵文書) に描かれた溝	18
第 16 図 第 14 地点遺構全体図 (1/160)・ 遺構土層断面図 (1/60)	19
第 17 図 第 14 地点遺構土層断面図 (1/60)	20
第 18 図 調査区位置及び現況面等高線図 (1/500)	21
第 19 図 遺物分布図 (1/150)・出土遺物実測図 (1/3)	22
第 20 図 遺構全体図・土層断面図 (1/40)	23

表目次

第 1 表 試掘確認調査一覧表 (1)	4
第 2 表 試掘確認調査一覧表 (2)	5
第 3 表 VII 層下部石器集中 1 母岩別器種一覧表	9

挿図目次

第 1 図 三芳町遺跡分布図 (1/30,000)	3
第 2 図 調査位置図 (1/2,500)	6
第 3 図 VII 層下部石器集中 1・礫群 1 器種別分布図 (1/80)・土層断面図 (1/100)	7
第 4 図 VII 層下部石器集中 1・礫群 1 母岩別・重量別 分布図 (1/80)	8
第 5 図 VII 層下部礫群 1 石材・赤化・煤状付着物・ 重量グラフ	9
第 6 図 出土石器 (2/3)	10

写真図版目次

写真図版 1 平成 21 年度 上永久保遺跡第 2 地点 (2 次),
中東遺跡第 4 地点

上永久保遺跡第 2 地点 (2 次) 調査前全景
上永久保遺跡第 2 地点 (2 次) 完掘
上永久保遺跡第 2 地点 (2 次) 完掘
上永久保遺跡第 2 地点 (2 次) 埋め戻し
中東遺跡第 4 地点 表土剥ぎ, 中東遺跡第 4 地点 調査風景
中東遺跡第 4 地点 完掘, 中東遺跡第 4 地点 埋め戻し

写真図版 2 平成 21 年度 俣埜跡 L 地点, 三芳唐沢遺跡
俣埜跡 L 地点 調査前全景, 俣埜跡 L 地点 表土剥ぎ
俣埜跡 L 地点 完掘, 俣埜跡 L 地点 埋め戻し
俣埜跡 L 地点 出土遺物 (1/2)
三芳唐沢遺跡 調査前全景, 三芳唐沢遺跡 表土剥ぎ

写真図版 3 平成 21 年度 三芳唐沢遺跡,
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点
三芳唐沢遺跡 完掘, 三芳唐沢遺跡 埋め戻し
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 調査前全景
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 表土剥ぎ
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 溝跡確認状況
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 調査風景
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 埋め戻し

写真図版 4 平成 21 年度 三富開拓地割遺跡第 12 地点,
新開遺跡, 中東遺跡第 5 地点
三富開拓地割遺跡第 12 地点 調査前全景
三富開拓地割遺跡第 12 地点 表土剥ぎ
三富開拓地割遺跡第 12 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 12 地点 埋め戻し
新開遺跡 調査前全景, 新開遺跡 完掘
中東第 5 地点 調査前全景, 中東遺跡第 5 地点 表土剥ぎ

写真図版 5 平成 21 年度 中東遺跡第 5 地点,
上永久保遺跡第 3 地点, 俣埜跡 M 地点
中東遺跡第 5 地点 完掘, 中東遺跡第 5 地点 埋め戻し
上永久保遺跡第 3 地点 調査前全景
上永久保遺跡第 3 地点 調査風景
上永久保遺跡第 3 地点 完掘
上永久保遺跡第 3 地点 埋め戻し
俣埜跡 M 地点 調査前全景, 俣埜跡 M 地点 完掘

写真図版 6 平成 22 年度 俣埜跡 N 地点
俣埜跡 N 地点 調査前全景, 俣埜跡 N 地点 完掘
俣埜跡 N 地点 炉穴確認状況
俣埜跡 N 地点 炉穴遺物出土状況
俣埜跡 N 地点 出土遺物 (1/2)

写真図版 7 平成 22 年度 古井戸山遺跡, 俣埜跡 O 地点
古井戸山遺跡 調査前全景, 古井戸山遺跡 完掘
古井戸山遺跡 調査前全景, 古井戸山遺跡 完掘
古井戸山遺跡 調査前全景, 古井戸山遺跡 完掘
俣埜跡 O 地点 調査前全景, 俣埜跡 O 地点 調査風景
本村南遺跡第 11 地点 住居址確認状況

写真図版 8 平成 22 年度 俣埜跡 O 地点
俣埜跡 O 地点 集石確認状況
俣埜跡 O 地点 集石確認状況
俣埜跡 O 地点 溝跡確認状況
俣埜跡 O 地点 遺構確認状況
俣埜跡 O 地点 溝跡完掘
俣埜跡 O 地点 石器集中確認状況
俣埜跡 O 地点 完掘, 俣埜跡 O 地点 埋め戻し

写真図版 9 平成 22 年度 俣埜跡 O 地点
俣埜跡 O 地点 出土土器 (1/2)
俣埜跡 O 地点 出土土器 (3/4)

写真図版 10 平成 22 年度 藤久保東第三遺跡第 6 地点,
三富開拓地割遺跡第 13 地点
藤久保東第三遺跡第 6 地点 調査前全景
藤久保東第三遺跡第 6 地点 調査風景

藤久保東第三遺跡第 6 地点 完掘
藤久保東第三遺跡第 6 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 13 地点 調査前全景
三富開拓地割遺跡第 13 地点 表土剥ぎ
三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡確認状況
三富開拓地割遺跡第 13 地点 調査風景

写真図版 11 平成 22 年度 三富開拓地割遺跡第 13 地点,
三富開拓地割遺跡第 14 地点

三富開拓地割遺跡第 13 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡堆積状況
三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡堆積状況
三富開拓地割遺跡第 14 地点 調査前全景
三富開拓地割遺跡第 14 地点 表土剥ぎ
三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡確認状況
三富開拓地割遺跡第 14 地点 調査風景

写真図版 12 平成 22 年度 三富開拓地割遺跡第 14 地点

三富開拓地割遺跡第 14 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡堆積状況
三富開拓地割遺跡第 14 地点 遺物出土状況
三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡堆積状況
三富開拓地割遺跡第 14 地点 出土遺物 (1/2)

写真図版 13 平成 22 年度 本村北遺跡 F 地点,
北原遺跡第 8 地点

本村北遺跡 F 地点 調査前全景, 本村北遺跡 F 地点 表土剥ぎ
本村北遺跡 F 地点 完掘, 本村北遺跡 F 地点 埋め戻し
北原遺跡第 8 地点 調査前全景, 北原遺跡第 8 地点 表土剥ぎ
北原遺跡第 8 地点 完掘, 北原遺跡第 8 地点 埋め戻し

写真図版 14 平成 22・23 年度 藤久保東第三遺跡第 7 地点,
本村北遺跡 G 地点

藤久保東第三遺跡第 7 地点 調査風景
藤久保東第三遺跡第 7 地点 完掘
藤久保東第三遺跡第 7 地点 完掘
藤久保東第三遺跡第 7 地点 土層断面
本村北遺跡 G 地点 調査前全景
本村北遺跡 G 地点 表土剥ぎ
本村北遺跡 G 地点 調査風景
本村北遺跡 G 地点 完掘

写真図版 5 平成 23 年度 本村北遺跡 G 地点,
生出窪北遺跡第 3 地点

本村北遺跡 G 地点 住居跡確認状況
本村北遺跡 G 地点 住居跡確認状況
生出窪北遺跡第 3 地点 調査前全景
生出窪北遺跡第 3 地点 表土剥ぎ
生出窪北遺跡第 3 地点 調査風景
生出窪北遺跡第 3 地点 完掘
生出窪北遺跡第 3 地点 土層断面
生出窪北遺跡第 3 地点 埋め戻し

写真図版 16 平成 23 年度 境松遺跡第 2 地点,
浅間後遺跡 (近接地)

境松遺跡第 2 地点 調査前全景, 境松遺跡第 2 地点 表土剥ぎ
境松遺跡第 2 地点 調査風景, 境松遺跡第 2 地点 完掘
浅間後遺跡 (近接地) 調査前全景
浅間後遺跡 (近接地) 表土剥ぎ
浅間後遺跡 (近接地) 完掘
浅間後遺跡 (近接地) 埋め戻し

写真図版 17 平成 23 年度 三富開拓地割遺跡第 15 地点

三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査前全景
三富開拓地割遺跡第 15 地点 石造物確認状況
三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査風景
三富開拓地割遺跡第 15 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 15 地点 完掘
三富開拓地割遺跡第 15 地点 土層断面
三富開拓地割遺跡第 15 地点 埋め戻し
三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査後風景

写真図版 18 平成 23 年度 三富開拓地割遺跡第 15 地点
三富開拓地割遺跡第 15 地点 出土遺物 (1/2, 1/1)

I. 序章

1. 三芳町遺跡について

三芳町は、埼玉県南西部の荒川右岸台地上に位置し、西方には富士山と秩父、多摩の山並みを遠望する平野地帯である。地形としては、西方約 50km 先の青梅市付近を扇頂として広がる武蔵野台地の北東部にあたり、台地縁辺から切り込む開析谷により僅かな起伏をもつものの、そのほとんどが関東ローム層に厚く覆われ、ほぼ平坦な地形を呈している。

三芳町は、上述のように関東ローム層の厚く堆積した台地が占め、特に町の西部域は現在流れる河川も雨水排水用の掘割となった砂川のみであり、広々とした台地が続いている。近年の発掘調査により西部域にも数条の埋没谷が存在し、その周辺において旧石器時代から縄文時代早期の遺跡の存在が明らかになりつつあるが、谷の埋没以降、西部域の集落形成は江戸時代の新田開発が行われるまで待たねばならなかったようである。西部域で行われた新田開発の中でも、元禄 7 年から 9 年(1694～96)に川越藩主柳沢吉保の命により行われた三富地区の畑作新田開拓地(三芳町大字上富、所沢市中富、下富)は、埼玉県の旧跡「三富開拓地割遺跡」として指定されており、今なお整然とした屋敷地と畑地と雑木林の区画が残され、武蔵野の典型的な新田開拓の面影をとどめる地域として知られる。

一方、町東部域はより武蔵野台地の縁辺に近く、柳瀬川をはじめとする荒川の沖積面に向かう数条の河川や開析谷が台地を切り込むように存在する。東部域はこれらの河川に沿って早くから開発が進み、西部域とは異なった様相を呈し、また原始・古代の遺跡も数多く存在する。

近年まで、三芳地域は自然環境に適応しつつ純農村地帯として緩やかな発展を遂げてきたが、都心より 30km 圏内にあることから都市化の波を強く受け、高度経済成長期からバブル期にかけて急激に変化してきた。町の東隣を走る東武東上線と地下鉄有楽町線の相互乗り入れ、関越自動車道路の貫通と所沢インターチェンジ設置等の交通手段の改善は、工場・倉庫等の企業進出や個人住宅・アパート・マンション等の住宅建設を促進させる結果となった。

三芳町には、現在 33 箇所の埋蔵文化財包蔵地が知られるが、当然のことながら開発行為は埋蔵文化財包蔵地内にも及び、破壊の危機にさらされてきている。すでにそのうちの一部は住宅開発等により煙滅してしまったものもある。三芳町ではこうした状況に対処すべく、文化財保護法改正後、特に昭和 51 年度以降埋蔵文化財の保護、とりわけ記録保存のための発掘調査に力を注いできた。しかし、このような発掘調査は蚕食的・個別的調査であることが多く、十分な時間と費用を費やし調査が実施でき得ぬことも多く、また、開発者との間で調査費用・期間等について問題が生じることも少なくなかった。

町では、このような問題を少しでも解消すべく国庫・県費の補助を得て、「三芳町町東部遺跡群発掘調査事業」(昭和 53 年度～昭和 57 年度)、「三芳町町内遺跡群発掘調査事業」(昭和 58 年度～平成元年度)、「三芳町町内遺跡発掘調査事業」(平成 2 年度～)として調査を実施してきた。遺跡範囲確認調査の実施により調査期間、調査方法、調査費用の積算等が容易になったことと、利益を目的としない個人住宅開発等の費用負担の問題を解消できたことは本事業の成果といえる。

本事業により、平成 21 年度は試掘確認調査 10 件、平成 22 年度は発掘調査 1 件、試掘確認調査 9 件、平成 23 年度は発掘調査 1 件、試掘確認調査 5 件を実施した。

今回の報告は、平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年間の成果の記録報告である。

2. 遺跡の立地と環境

三芳町は、埼玉県の西南部に位置し、東に志木市、富士見市、南東に新座市、南西に所沢市、北にふじみ野市、川越市と接する。面積は 15.3km²、人口は約 38,000 人である。地形的には、多摩川の開析扇状地といわれる武蔵野台地上の北東部縁辺に位置している。町の西部域は標高約 45m でほとんど平坦な地形を呈するが、標高 30m の等高線を境とする東部域には東方の沖積地(荒川低地)に向かう河川が複数存在しており、遺跡の多くはこうした河川流域に分布している。また、近年の調査により、現在はほぼ平坦な地形を呈する西部域にも数条の埋没谷が存在し、その周辺で遺跡の存在が明らかになりつつある。以下、河川流域ごとに主要遺跡のこれまでの調査成果を概観する。

【砂川流域】現在は雨水排水用の掘割となっている砂川流域には、平成 16 年度実施の分布調査により新たに登録された遺跡が数多く存在する。上永久保遺跡(30)では 2 地点の調査が行われ、旧石器時代Ⅳ層の石器製作址や礫群、時期不明の土坑が検出されている。また、右岸の宮前遺跡(19)では、奈良・平安時代の木炭窯が検出され、同じ崖線上で奈良時代後半から平安時代にかけての大規模な製鉄遺跡、東台遺跡(ふじみ野市)に木炭を供給していた可能性もあり注目される。

【富士見江川流域】富士見江川最上流域付近には藤久保東遺跡(12)、藤久保東第二遺跡(10)、藤久保東第三遺跡(11)、俣埜遺跡(9)の旧石器時代を中心とした 4 つの遺跡が存在する。藤久保東遺跡、藤久保東第二遺跡では旧石器時代Ⅹ層から局部磨製石斧 3 点を含む 80 点以上の石器や礫が出土しており、県内最古の石器群である(三芳町指定文化財)。また、藤久保東遺跡では旧石器時代Ⅹ層、Ⅸ層、Ⅶ層、Ⅵ層、Ⅴ層、Ⅳ層、Ⅲ層から 10,000 点を越える石器や礫が富士見江川旧河道に沿うように検出されている。俣埜遺跡では旧石器時代Ⅸ層～Ⅳ層にかけての石器、縄文時代早期の炉穴、縄文時代中期から後期の住居跡が検出されているほか、平成 16 年実施の発掘調査により奈良・平安時代の溶解炉、木炭窯、住居跡が検出され、町内で初めて製鉄遺跡の存在が確認された。

【唐沢堀流域】唐沢堀右岸には、新開遺跡(7)が存在する。昭和 51 年から調査が進められ、旧石器時代Ⅴ層～Ⅳ層より石器製作址 39 箇所、礫群 45 箇所のほか平安時代の須恵器窯跡・工房跡が検出されている。また、左岸には三芳唐沢遺跡(8)が存在し、旧石器時代の石器が出土している。

【柳瀬川流域】柳瀬川左岸には、上流より古井戸山遺跡(2)、本村南遺跡(1)、本村北遺跡(3)、北側遺跡(4)が存在する。古井戸山遺跡では旧石器時代の石器集中や礫群、縄文時代前期及び弥生時代前期の住居跡が確認されている。隣接する本村南遺跡は、かつて弥生時代中期末葉(宮ノ台式)の土器が出土したことで知られる遺跡である。これまでの発掘調査により弥生時代中期～後期の住居跡や弥生時代後期の方形周溝・V 字状の大溝が検出され、弥生時代中期末葉～後期末葉を中心とする遺跡として位置付けられる。本村北遺跡では、縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の各住居跡が検出されている。北側遺跡では現在のところ調査による遺構・遺物の検出は無いが、縄文時代中期及び弥生時代後期の土器片、土師器片、須恵器片の出土が知られている。

【西部域の埋没谷流域】砂川に合流もしくは並行すると考えられる埋没谷の上流域には、中東遺跡(20)が広がる。これまでに 4 地点を調査し、旧石器時代Ⅸ層、Ⅶ層、Ⅵ層、Ⅴ層、Ⅳ層から 3,400 点を越える石器や礫が出土しており、富士見江川最上流域に位置する藤久保東遺跡(12)同様、重層的な遺跡である。また、平成 24 年度の発掘調査により、中東遺跡の位置する埋没谷と流路を異にする埋没谷において、サガヤマ遺跡(33)が新たに確認され、Ⅶ層～Ⅸ層に位置付けられる石器製作址が検出された。さらに、三芳町と所沢市の境を流れる埋没谷最上流域には南止遺跡(21)が存在し、特に旧石器時代Ⅳ層下部で石器集中、礫群が多数確認されているほか、Ⅲ層上部において野岳・休場型の非削片系細石刃核、細石刃が出土している。



第1図 三芳町遺跡分布図(1/30,000)

II. 年度ごとの調査概要

平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年間に、町内遺跡発掘調査事業において調査を実施した遺跡は 13 遺跡 26 地点である。このうち、平成 21 年度は試掘確認調査 10 件、平成 22 年度は発掘調査 1 件、試掘確認調査 9 件、平成 23 年度は発掘調査 1 件、試掘確認調査 5 件を行った。年度ごとの調査概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

1) 俣埜遺跡 O 地点

所在地：三芳町大字藤久保字俣埜 378-6、-7 の各一部 調査原因：集会所建築
 調査期間：平成 22 年 9 月 29 日～ 10 月 19 日 調査面積：175㎡
 開発者：三芳町長 主な遺構：(旧石器)石器集中 2 箇所、
 (縄文)集石 2 基他

2) 本村北遺跡 G 地点

所在地：三芳町大字竹間沢 793、823 調査原因：資材置場造成
 調査期間：平成 23 年 5 月 16 日～ 6 月 30 日 調査面積：1,300㎡
 開発者： 主な遺構：(弥生・奈良)住居跡各 1 軒他
 報告書：『本村北遺跡 G 地点発掘調査報告書』（平成 24 年 3 月刊行）

2. 試掘確認調査

平成 21 年度から平成 23 年度に実施した試掘確認調査は、下記の通りである。

遺跡名称	調査原因	調査地	調査期間	面積	確認内容
上永久保遺跡 第 2 地点 (2 次)	工場増設	上富 1696-3 他	21.4.20～4.24 21.5.12	3,109 ㎡	遺物・遺構なし
中東遺跡 第 4 地点	倉庫増築	上富 168-16 他	21.5.7～7.9	381 ㎡	遺物・遺構なし
俣埜遺跡 L 地点	分譲住宅	藤久保 378-1 の 一部	21.6.1～6.8	3,883 ㎡	縄文時代土器片 →盛土保存
三芳唐沢遺跡	資材置場	藤久保 430-5 他	21.7.15～7.17	1,176 ㎡	遺物・遺構なし
三富開拓地割遺跡 第 10・第 11 地点	歩道整備	上富 1-5,13-3 他	21.7.28～7.31	772 ㎡	時期不明溝 1 条 →盛土保存
三富開拓地割遺跡 第 12 地点	歩道整備	上富 64-1,-3	21.8.12	46 ㎡	遺物・遺構なし
新開遺跡	植樹	みよし台 2	21.10.5	10 ㎡	遺物・遺構なし
中東遺跡 第 5 地点	駐車場	上富 179-1,-6	21.10.19～11.2 21.11.13～11.19 22.2.17～2.23	1,872 ㎡	遺物・遺構なし

第 1 表 試掘確認調査一覧表(1)

遺跡名称	調査原因	調査地	調査期間	面積	確認内容
上永久保遺跡 第3地点	個人住宅	上富 1573-5	22.1.18 ~ 1.28	496 m ²	遺物・遺構なし
俣埜遺跡 M地点	携帯電話 鉄塔	藤久保 356-4 の 一部	22.2.15	10 m ²	遺物・遺構なし
俣埜遺跡 N地点	保育園建設	藤久保 357-1	22.4.12 ~ 5.12 22.6.2 ~ 6.3	2,413 m ²	縄文時代炉穴、土坑 →盛土保存
古井戸山遺跡 (近接地)	資材置場 及び駐車場	竹間沢 1046-10, -11	22.8.10 ~ 8.19	313 m ²	遺物・遺構なし
古井戸山遺跡 (近接地)	駐車場	竹間沢 1045-7	22.8.10 ~ 8.19	114 m ²	遺物・遺構なし
俣埜遺跡 O地点	集会所建設	藤久保 378-6,-7 の各一部	22.9.29 ~ 10.19	710 m ²	縄文時代集石 2 基、時期不明溝 1 条、縄文時代土器片 →盛土保存、一部受託調査
藤久保東第三遺跡 第6地点	個人住宅	藤久保 341-19	22.10.25 ~ 10.26	97 m ²	遺物・遺構なし
三富開拓地割遺跡 第13・第14地点	歩道整備	上富 255-2 他	22.12.7 ~ 12.16 23.2.4 ~ 2.23	822 m ²	時期不明溝 1 条 →盛土保存
本村北遺跡 F地点	個人住宅	竹間沢 784-3 他	23.1.12 ~ 1.18	338 m ²	遺物・遺構なし
北原遺跡 第8地点	無線基地局	竹間沢 542-1	23.1.19 ~ 2.3	199 m ²	遺物・遺構なし
藤久保東第三遺跡 第7地点	個人住宅	藤久保 341-31	23.2.16 ~ 2.18	107 m ²	遺物・遺構なし
本村北遺跡 G地点	資材置場	竹間沢 793,823	23.4.13 ~ 5.10	2,728 m ²	弥生時代住居跡・奈良時代住居跡各 1 軒、時期不明溝 4 条 →受託調査
生出窪北遺跡 第3地点	工場建設	竹間沢 258-8 他	23.8.29 ~ 9.14	4,546 m ²	黒曜石剥片・遺構なし
境松遺跡 第2地点	個人住宅	北永井 982-8 他	23.10.3 ~ 10.7	549 m ²	黒曜石剥片・遺構なし
浅間後遺跡 (近接地)	個人住宅	藤久保 3796-3	24.2.24	71 m ²	遺物・遺構なし
三富開拓地割遺跡 第15地点	保存整備	上富 1439-1	24.2.20 ~ 3.13	77 m ²	時期不明井戸 1 基 →盛土保存

第2表 試掘確認調査一覧表(2)

Ⅲ. 各遺跡の調査

1. 俣埜遺跡O(オー)地点の調査

1) 遺跡の立地と概要

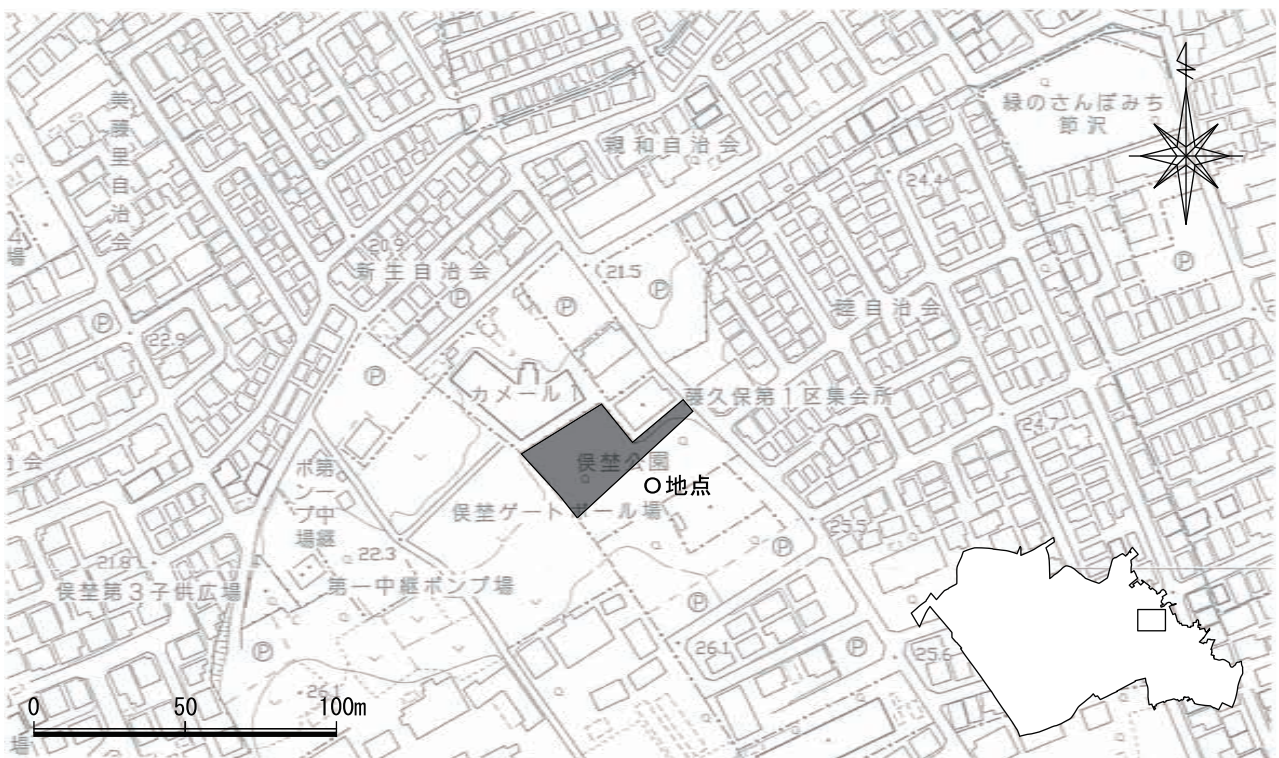
俣埜遺跡は、武蔵野台地東端部を開析する新河岸川の支流である江川の上流部右岸台地上に位置する。本遺跡は昭和52年度の最初の調査から、これまでに15次にわたる発掘調査が行われており、旧石器時代の石器・礫群、縄文時代早期の炉穴25基・中期の住居跡4軒・柄鏡形住居跡1軒、奈良・平安時代の木炭窯・住居跡3軒ほか製鉄関連遺構、近世から近代と考えられる溝状遺構などが検出されている。本遺跡は、旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代の遺構の存在が明らかな複合遺跡である。

2) 調査の概要

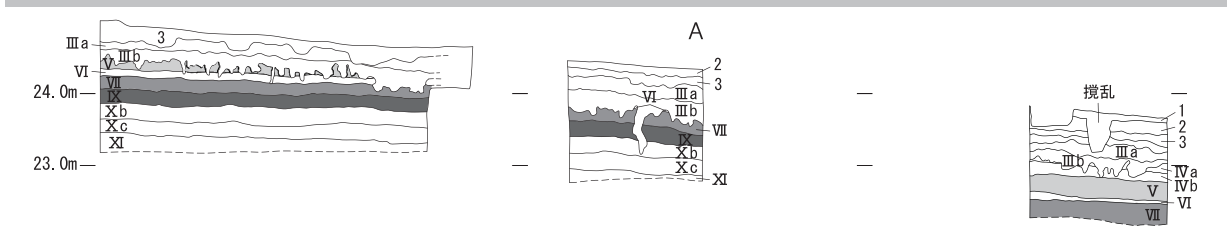
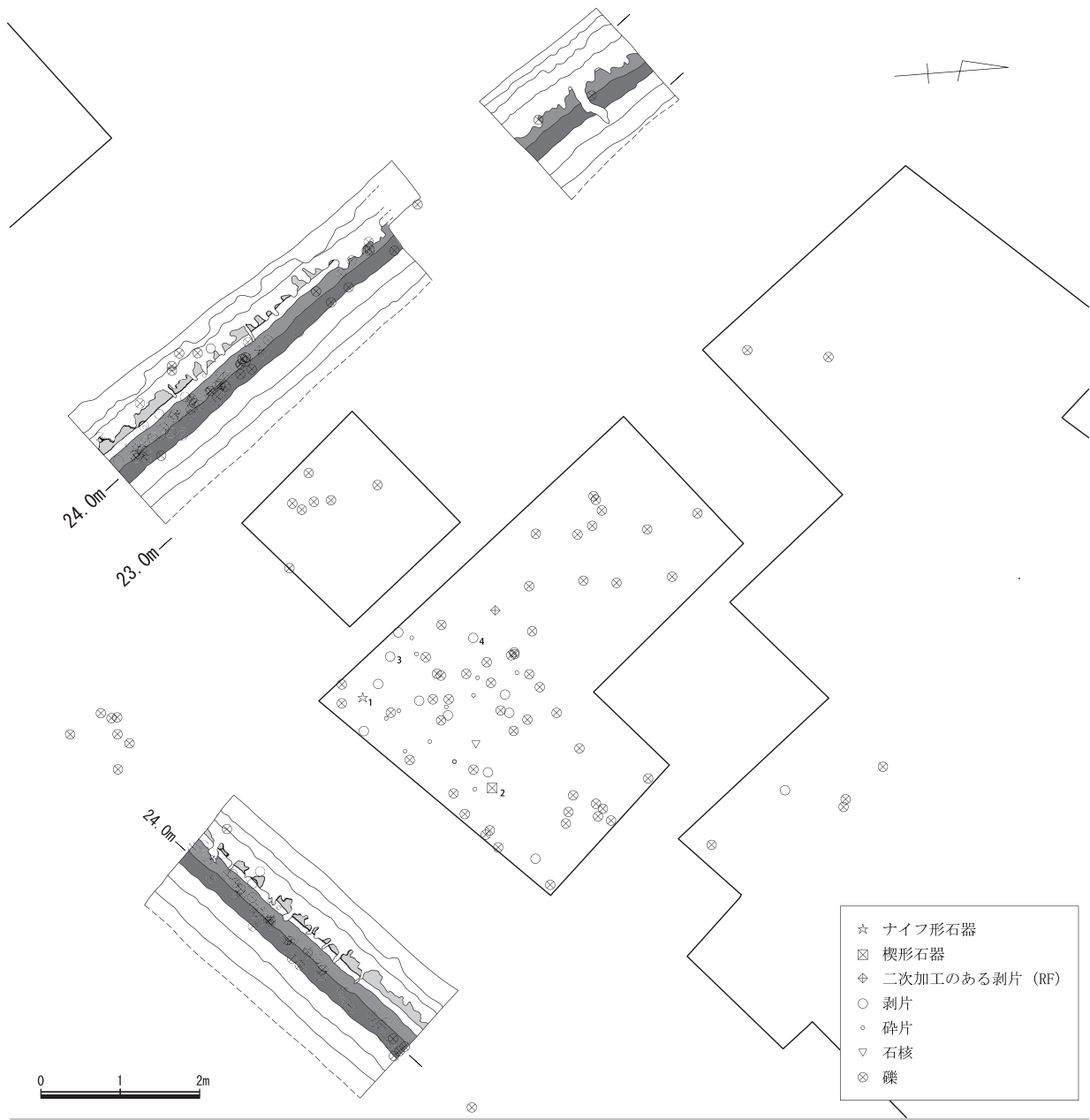
今回の調査地点であるO地点は、埼玉県入間郡三芳町藤久保378-6・378-7に位置する。調査は集会所建築に先立つ遺跡の範囲及び性格・内容を把握するための試掘確認調査として、平成22年9月29日～10月19日にかけて710.42㎡を実施した。調査の結果、縄文時代の集石、時期不明の溝跡・土坑が検出されたため、申請者と協議を行い、範囲を限定した175㎡について平成22年10月20日～12月2日にかけて発掘調査を実施することとなった。今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号32-009)の北東に位置する。

3) 遺構と遺物

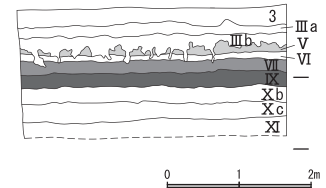
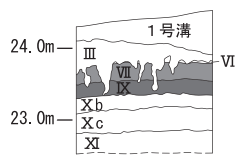
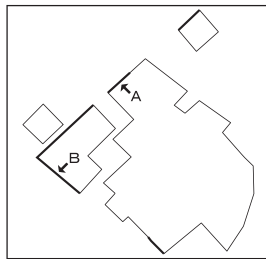
遺構は、旧石器時代Ⅶ層下部より石器集中1箇所、礫群1箇所、縄文時代中期の集石3基、時期不明の溝跡1条が検出され、遺物はナイフ形石器・楔形石器をはじめとした石器29点、礫65点、縄文時代中期後半を中心とした縄文土器片45点、焼石等が出土した。



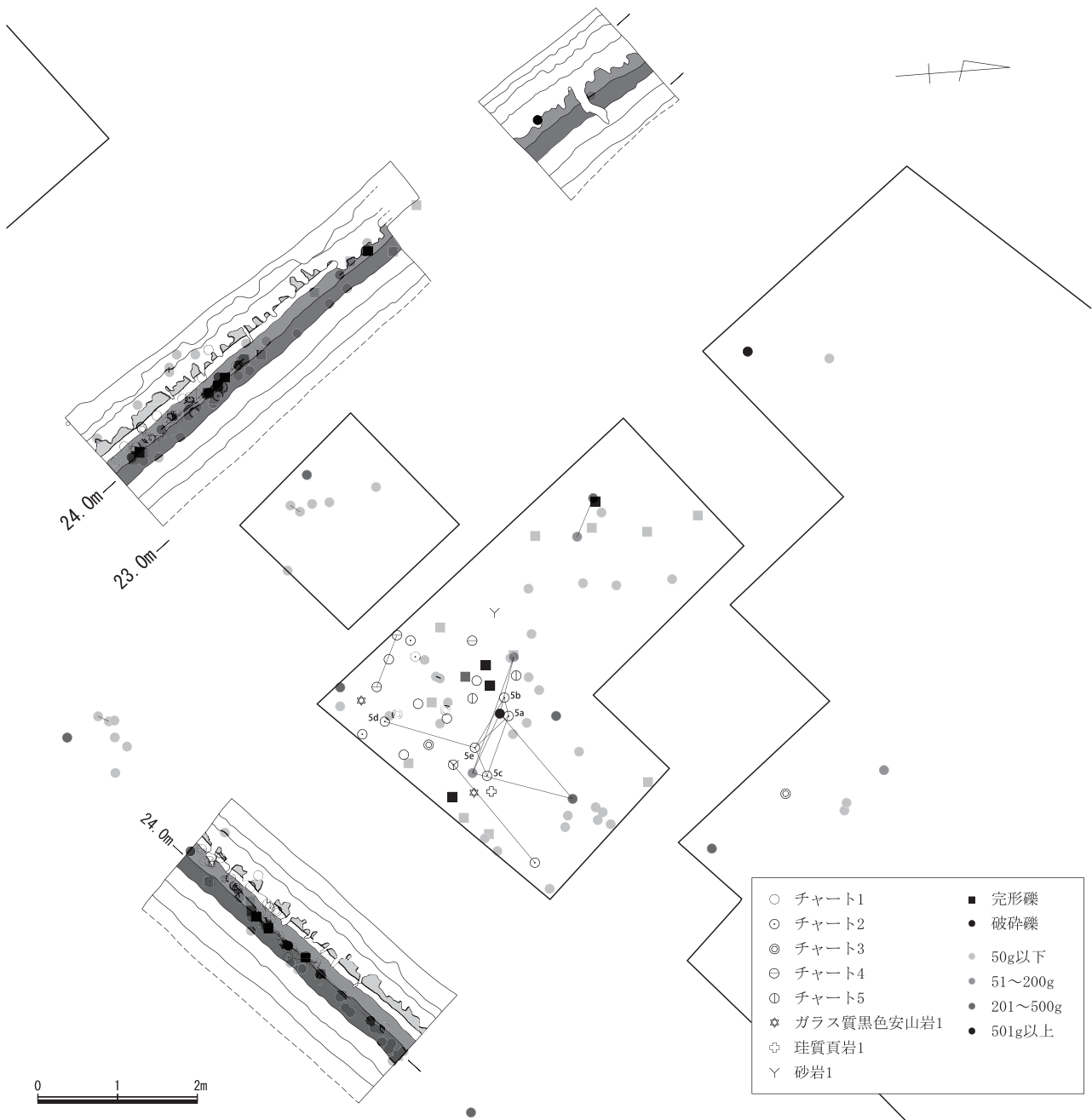
第2図 調査位置図(1/2,500)



- 1 褐色 しまり弱, 粘性弱, 径0.3~0.5mmの黒色粒子をやや多く含む, 径0.1~0.3mmの白色粒子を非常に多く含む。ローム粒を多量に含む。
- 2 黒褐色 しまり有, 粘性弱, 径0.2~0.3mmの赤色スコリアを微量, 径0.3~0.5mmの黒色粒子を多量, 径0.1~0.3mmの白色粒子を多量に含む。ローム粒を少量含む。
- 3 褐色 しまり有, 粘性弱, 径0.2~0.3mmの赤色スコリアを微量, 径0.3~0.5mmの黒色粒子を少量, 径0.1~0.3mmの白色粒子を少量含む。ローム粒を多量, ロームブロックを少量含む。



第3図 VII層下部石器集中1・礫群1 器種別分布図(1/80)・土層断面図(1/100)



第4図 VII層下部石器集中1・礫群1 母岩別・重量別分布図(1/80)

【石器集中】 (第3・4図)

石器集中1

調査区南西に位置し、礫群1の分布域と重なる。石器の分布は、南北2.2m×東西3.2mと狭い範囲であるが、さらに南側の調査区外へ広がる可能性が高い。調査区域の地形は、北側を流れる富士見江川に向かう緩斜面上であるが、石器の垂直分布は立川ローム層のVII層下部～IX層上部にかけてまとまって位置している。石器の総点数は29点であり、石材はガラス質黒色安山岩1母岩、珪質頁岩1母岩、チャート5母岩、砂岩1母岩で構成される。主な石器はナイフ形石器、楔形石器、剥片、石核などである。接合関係は3個体が見られた。

母岩名/器種	ナイフ形石器	楔形石器	RF	剥片	碎片	石核	点数	重量(g)	点数比	重量比
ガラス質黒色安山岩1	1				1		2	2.51	6.90%	1.97%
珪質頁岩1		1					1	2.67	3.45%	2.09%
チャート1				3	2		5	39.33	17.24%	30.82%
チャート2				5	4	1	10	53.96	34.48%	42.29%
チャート3				1	3		4	12.15	13.79%	9.52%
チャート4				3			3	8.84	10.34%	6.93%
チャート5					2		2	7.73	6.90%	6.06%
砂岩1			1		1		2	0.41	6.90%	0.32%
合計	1	1	1	12	13	1	29	127.6	100.00%	100.00%

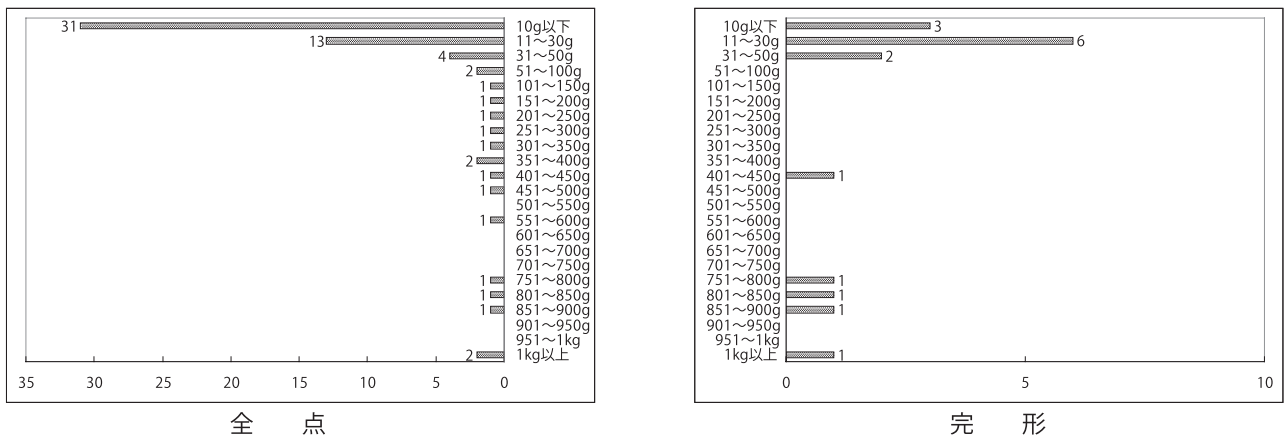
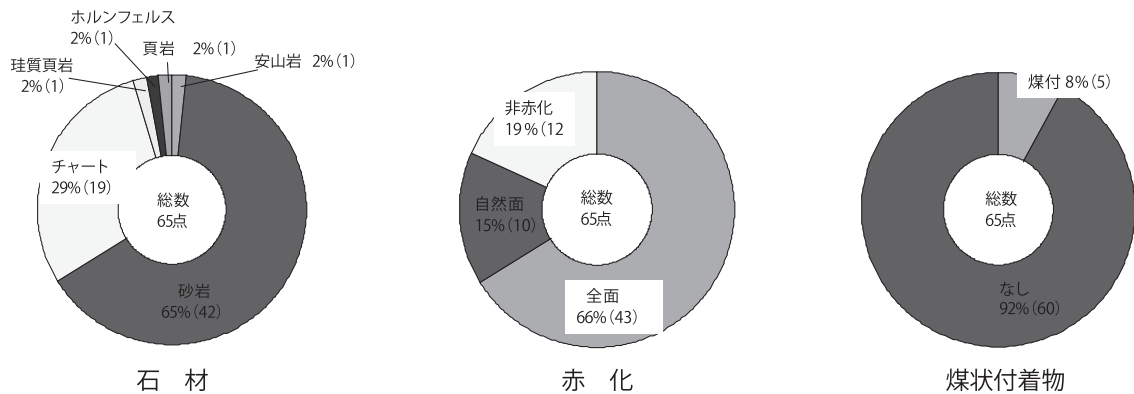
第3表 VII層下部石器集中1 母岩別器種一覧表

【礫群】 (第3・4図)

礫群1

調査区南西に位置し、石器集中1の分布域と重なる。礫の分布は、南北7.5m×東西6.8mと広範囲であるが、さらに南側の調査区外へ広がる可能性が高い。概して散漫な分布であるが、石器集中1の分布域と重なる中央部において、やや集中する傾向が見られる。垂直分布は一部III層に位置するものの、総じてVII層下部～IX層上部にかけてまとまって分布している。石器集中1と同様、VII層下部の礫群と考えられる。礫の総点数は65点、重量は50g以下が全体の74%にあたる48点と小礫で構成される。また、赤化は全体の82%で見られるものの、煤状付着物が確認できたのは5点のみであった。接合関係は4個体が見られた。礫群の分布域とほぼ重なる範囲において炭化物の広がりも認められ、特に礫群中央部付近で数多く確認された。

なお、礫群内部の中央部には、西側から815g、771g、1,389gと大きな礫が並んで検出され、やや離れた東側にも1,690gの大礫が出土した。また、少し離れた北東側にも888gの大礫が検出されており、これらは他の礫とは重量が明らかに異なり、また赤化も見られることから、配石であると考えられる。



第5図 VII層下部礫群1 石材・赤化・煤状付着物・重量グラフ

【石器】 (第6・7図)

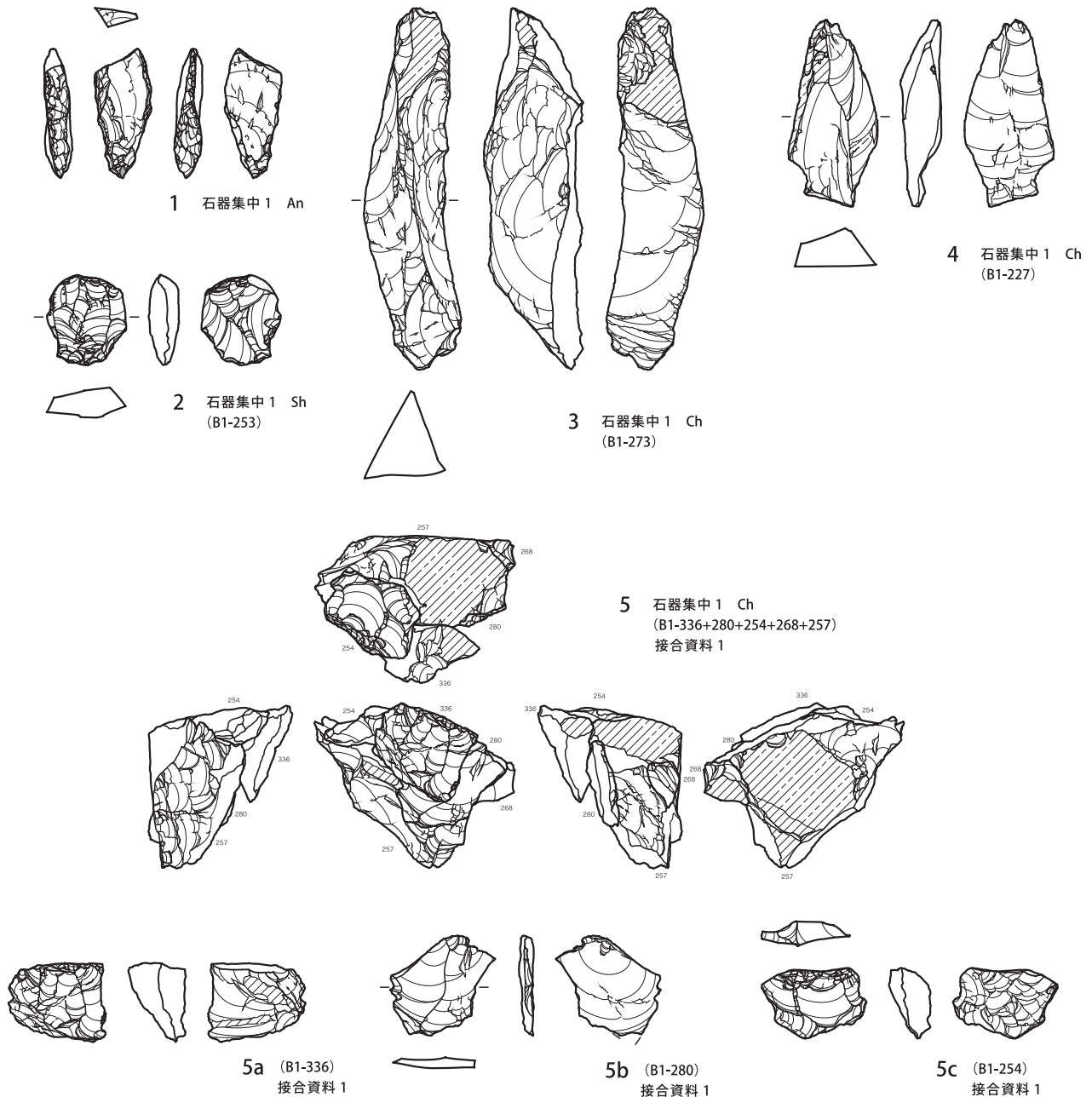
1はナイフ形石器である。左側縁は主要剥離面側からの急角度調整、右側縁は主要剥離面側からの細かな調整が見られ、左右両側縁全体に調整が施される。特に右側縁下部には背面稜上からの調整も加えられ、打面を除去している。刃部は切出し状を呈する。

2は楔形石器である。上端は主要剥離面側・背面側ともに細かな調整が加えられる。下端は背面に細かな調整が見られるが、主要剥離面側にはわずかな調整が施されるのみである。上部から左側縁にかけて、原礫面を残す。

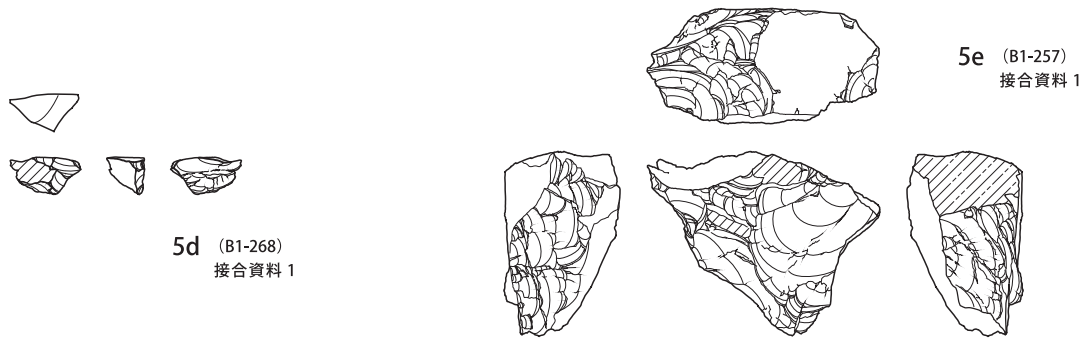
3、4は剥片である。3は右側縁のごく一部に不規則な剥離が見られる。

<接合資料>

5は接合資料である。上面を打面として連続剥離を行い5a→5bを作出。その後、左方向へ90°回して打面転移し、これまでの作業面を打面として剥片剥離を行って5cを剥離、5eが残核として残る。なお、5dは細かな碎片であるが、どの段階で剥離されたのか判然としない。



第6図 出土石器(2/3)



第7図 出土石器(2/3)

【集石】 (第9図)

1号集石

規模は長径 1.0m (現存部) × 短径 0.7m × 深さ 0.2m で、楕円形を呈する。一部分、現代の開発により攪乱されている。掘り込みはかなり浅いが、調査区の地形が北側に向かう緩斜面上であり、表土層が非常に薄いため、遺構上部が既に破壊されている可能性もある。礫の総点数は 98 点、総重量は 4.5kg、全体の 92% が 100g 以下と小ぶりの礫で構成される。石材は主に砂岩 76%、チャート 16% であり、赤化は 97% の礫で認められた。接合関係は 1 号集石内部、隣接する 3 号集石と顕著に見られ、距離の離れた 2 号集石とは 1 個体のみ確認された。

2号集石

他 2 基の集石とは異なり、北側に向かう斜面をやや下った場所に位置する。規模は長径 1.5m (現存部) × 短径 1m × 深さ 0.5m で、楕円形を呈する。礫の総点数は 41 点、総重量は 0.6k g と少なく、また 1 点を除く全てが 50g 以下の小礫で構成される。石材は主に砂岩 68%、チャート 27% である。接合関係は 2 号集石内部では 1 個体のみであり、他は全て斜面上の 1・3 号集石と認められた。また、赤化は 95% の礫で見られたが、そのうち 24% は自然面のみの赤化で破砕面は焼けておらず、礫を何度も使用していないと考えられる。接合関係が斜面上の集石と多く見られること、確認された礫が他の集石の礫よりも小さいことを考え合わせると、まず 2 号集石が作られ、その後、比較的大きな礫だけを持ち出して 1・3 号集石が作られた可能性が高いと考えられる。

3号集石

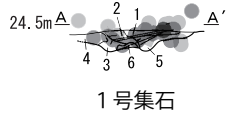
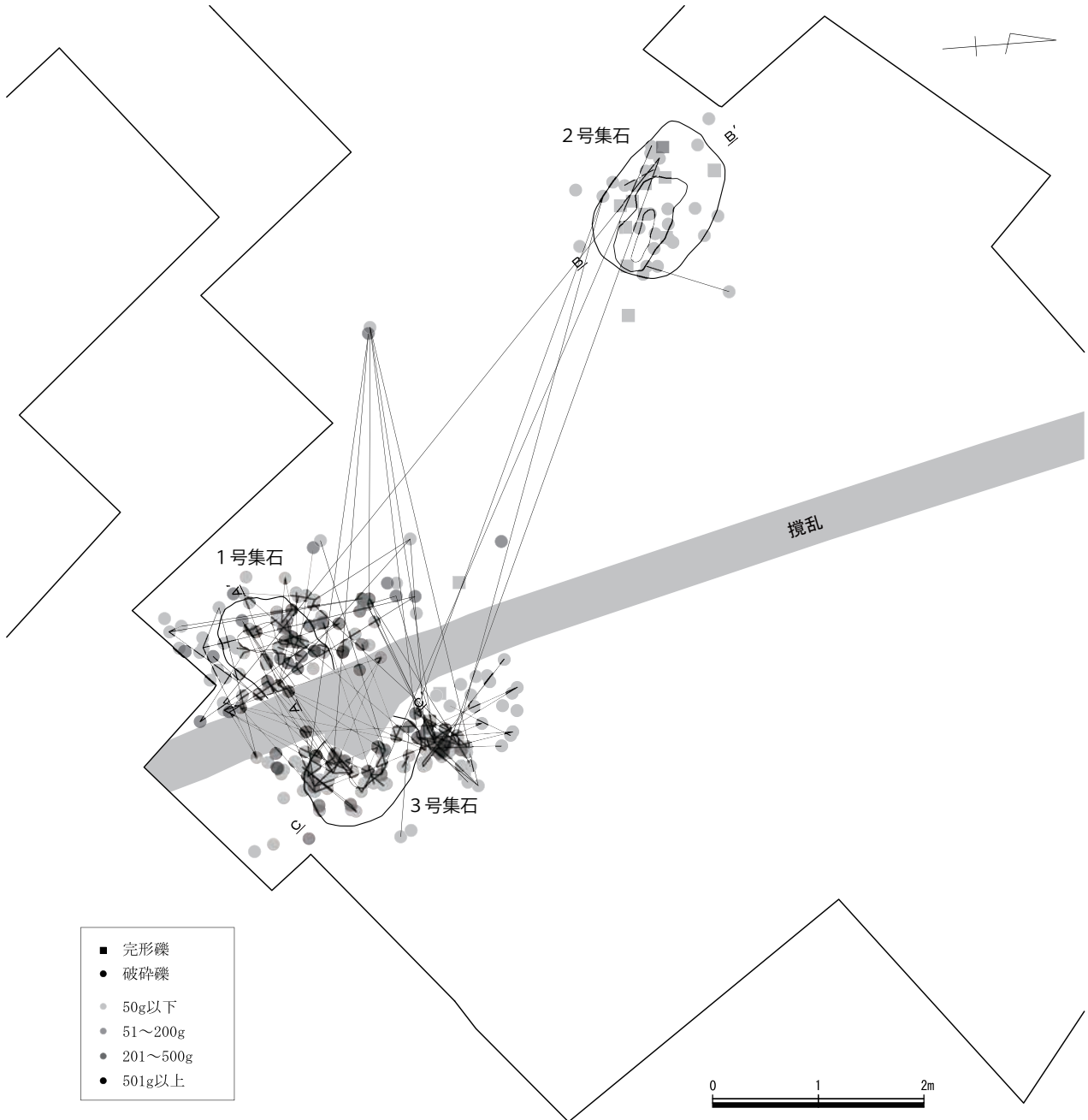
規模は長径 1.2m × 短径 0.9m × 深さ 0.1m で、楕円形を呈する。一部分、現代の開発により攪乱されている。掘り込みはかなり浅いが、1 号集石と同じく遺構上部が既に破壊されている可能性もある。礫の総点数は 168 点、総重量は 5.4kg、全体の 91% が 100g 以下と小ぶりの礫である。石材は主に砂岩 75%、チャート 20% であり、赤化は 97% の礫で認められた。接合関係は 3 号集石内部、隣接する 1 号集石と顕著に見られ、また距離の離れた 2 号集石とも複数個体確認された。

【土器】 (第8図)

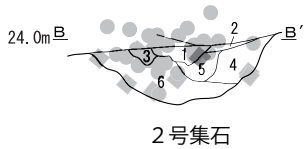
集石内からの出土はなかったが、漸移層および表土一括で縄文時代中期後半を中心とした土器片が確認されている。



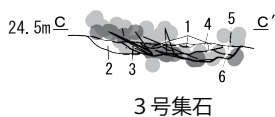
第8図 出土土器(1/3)



- 1 茶褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。ローム粒を少量含む。
- 2 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.6mmの炭化物をやや多く含む。ローム粒を多量に含む。
- 3 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの炭化物をわずかに含む。ローム粒を少量含む。
- 4 黄褐色 しまり有, 粘性有, ロームブロックを主体とし、黒色土が少量混入する。
- 5 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子をわずかに含む。ローム粒を多量に含む。
- 6 黄褐色 しまり有, 粘性強, ロームブロックを主体とし、黒色土がわずかに混入する。



- 1 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子を少量含む。ローム粒を少量含む。
- 2 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子を多量に含む。ローム粒を多量に含む。
- 3 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの黒色粒子を多量に含む。ローム粒を多量に含む。
- 4 黒褐色 しまり弱, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子をやや多く含む。ローム粒をやや多く含む。
- 5 褐色 しまり弱, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子を少量含む。ロームブロックを少量含む。
- 6 黄褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの黒色粒子をわずかに含む。ローム粒を多量に含む。



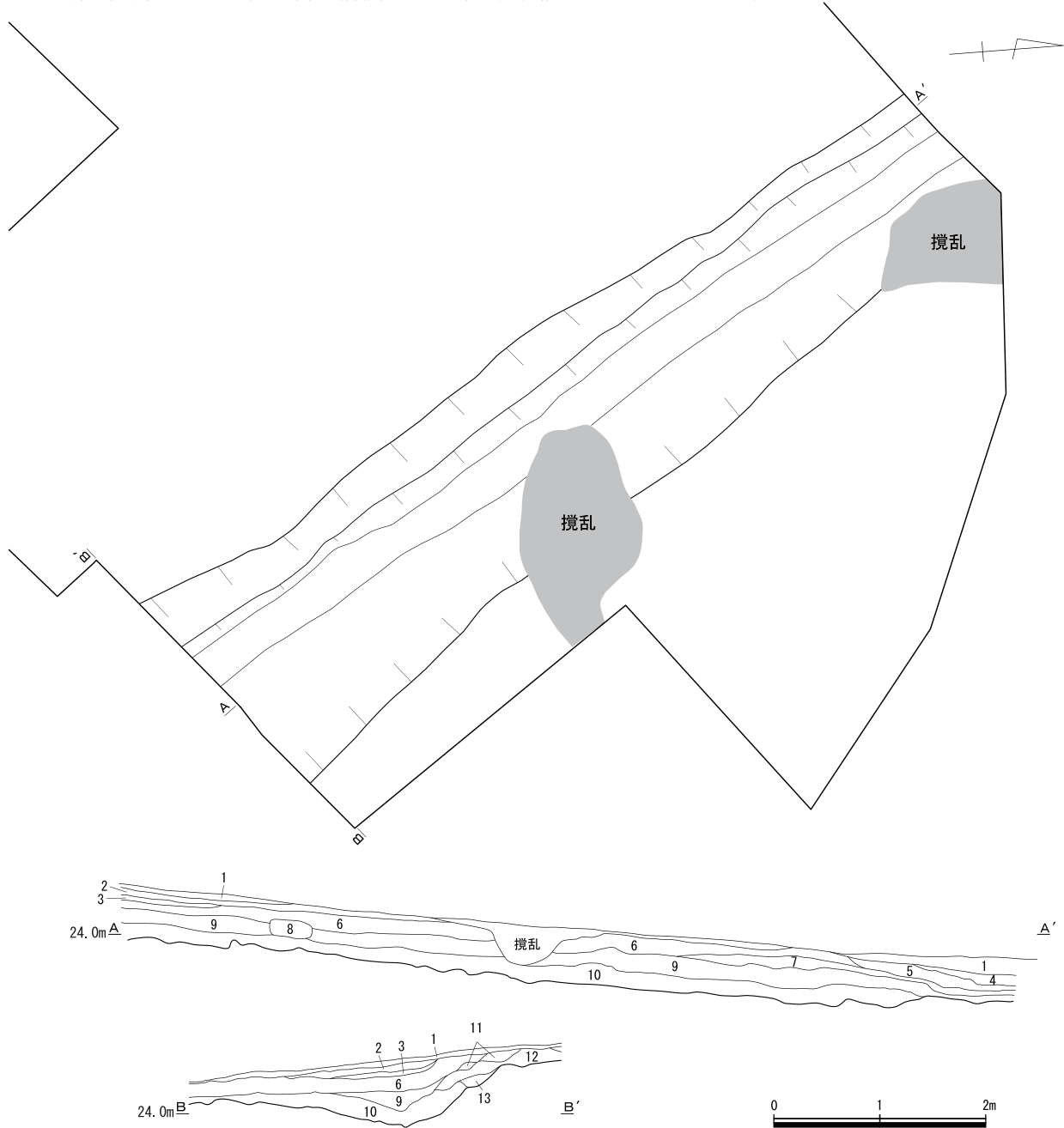
- 1 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。ローム粒を少量含む。
- 2 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。ローム粒を少量含む。
- 3 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。ローム粒を多量に含む。
- 4 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を多量、径0.2~0.4mmの炭化物をやや多く含む。ローム粒をやや多く含む。
- 5 黄褐色 しまり有, 粘性強, ロームブロックを主体とする。径0.2~0.4mmの炭化物を多量に含む。
- 6 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。ローム粒を少量含む。

第9図 1号・2号・3号集石平面図・断面図(1/60)

【溝跡】 (第10図)

1号溝跡

調査区西部において、地形の傾斜と平行して南東から北西方向へ続く溝が1条検出された。断面形は浅鉢状を呈し、西側は中段付近で若干のテラスを形成している。規模は上幅1.9m×底幅0.4m×深さ0.6mで、さらに調査区外へ延びる。遺物は溝覆土より礫が数点出土したのみである。



- 1 茶褐色 しまり強、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子を多量に含む。ローム粒を多量に含む。
- 2 黒褐色 しまり強、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒子をわずかに含む。ローム粒を少量含む。
- 3 黄褐色 しまり有、粘性強、径0.1~0.2mmの白色粒子をわずかに含む。ロームブロックを非常に多く含む。
- 4 黄褐色 しまり強、粘性強、径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの黒色粒子をわずかに含む。ロームブロックを非常に多く含む。
- 5 茶褐色 しまり強、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を微量、径0.2~0.4mmの黒色粒子をわずかに含む。ローム粒を多量に含む。6層に似るが、6層よりもしまりがありローム粒も多い。
- 6 褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を多量に含む。ローム粒を少量含む。
- 7 黒褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子をわずかに含む。ローム粒をわずかに含む。
- 8 黄褐色 しまり弱、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を非常に多く含む。ロームブロックを多量に含む。根による攪乱か。
- 9 褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を少量含む。ローム粒をわずかに含む。
- 10 茶褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子をわずかに含む。ローム粒を多量に含む。
- 11 黒褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子を少量含む。ローム粒を少量含む。9層と色調似るが、9層よりもしまりがある。
- 12 褐色 しまり有、粘性有、径0.1~0.2mmの白色粒子をわずかに含む。ローム粒を多量に含む。
- 13 黄褐色 しまり有、粘性有、ロームを主体とし、黒褐色土が若干混入する。

第10図 1号溝跡平面図・断面図(1/60)

2. 三富開拓地割遺跡第 10 地点・第 11 地点の調査

1) 遺跡の立地と概要

三富開拓地割遺跡は、三芳町の西部域にあたる上富地区及び所沢市東部域の中富地区・下富地区に広がり、元禄年間に開拓された畑作新田の景観をとどめる地域として、埼玉県旧跡に指定されている。これまでに住宅の建て替えや県道さいたま・ふじみ野・所沢線の歩道拡幅に伴う発掘調査・試掘調査が、数次にわたり実施されている。

2) 調査の概要

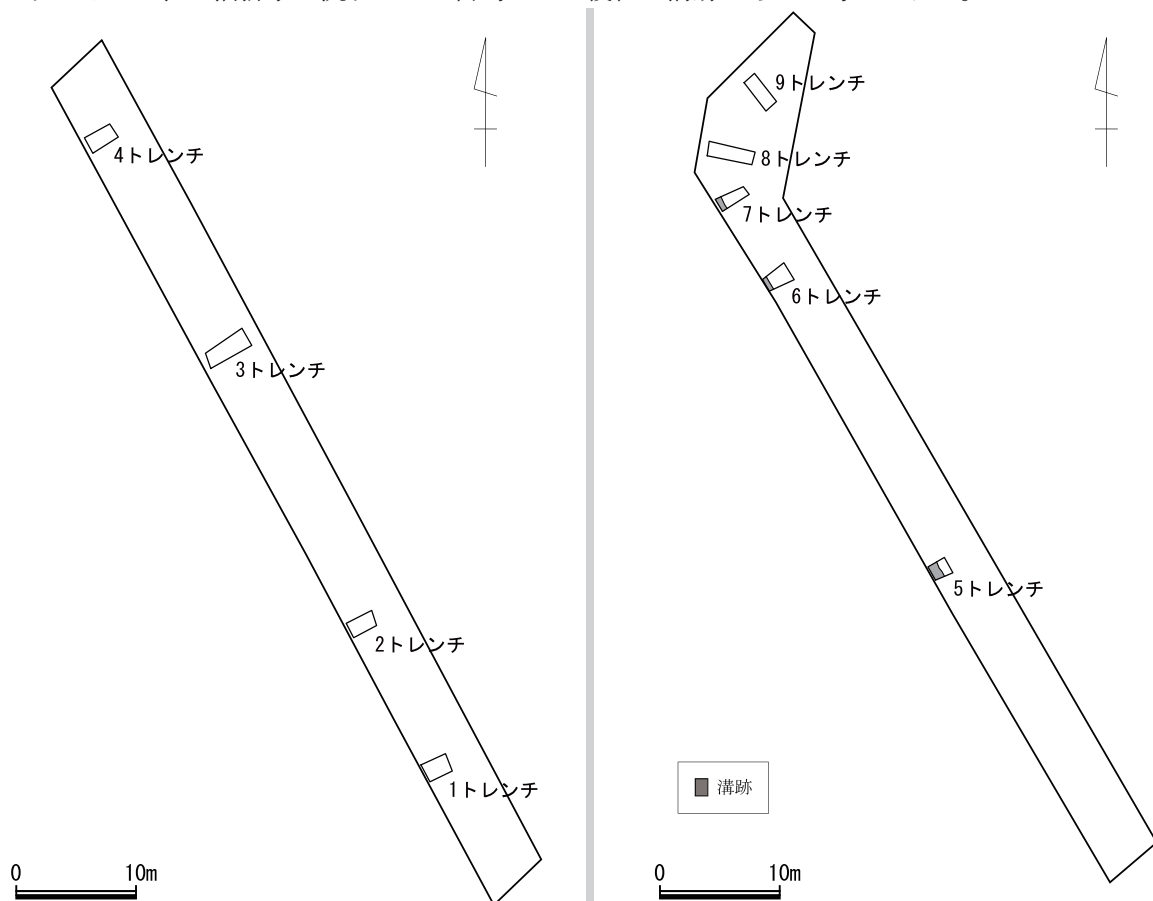
今回の調査地点である第 10 地点・第 11 地点は、埼玉県入間郡三芳町上富 1-6 他に位置する。調査は、県道さいたま・ふじみ野・所沢線の歩道拡幅に先立ち、古絵図に描かれた溝の痕跡等を確認するための試掘確認調査として、平成 21 年 7 月 28 日～7 月 31 日にかけて 771.79㎡を実施した。調査の結果、時期不明の溝跡が検出されたため、申請者と協議を行い、遺構が確認された範囲周辺は保護層を設けて、遺構を現状のまま保存することとなった。今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号 32-022)の中央北寄りに位置する。

3) 遺構と遺物

遺構は、時期不明の溝跡が検出されたが、遺物の出土はなかった。

【溝跡】 (第 11 図)

検出された溝跡は、第 11 地点 5～7 トレンチにおいて、地表下 0.7m のソフトローム面で確認した。部分的に掘り下げたところ、確認面から約 0.1m で溝底面に達した。確認された溝跡の幅は、上幅 0.7m、底面幅 0.6m であった。溝跡の形態等から判断すると、他地点で確認されている古絵図に描かれた溝とは性格を異にするもので、生活排水を流すことを目的とした後世の溝跡であると考えられる。



第 11 図 第 10・11 地点遺構全体図(1/600)



第 12 図 三富開拓地割遺跡調査位置図(1/10,000)

3. 三富開拓地割遺跡第 13 地点・第 14 地点の調査

1) 調査の概要

第 13 地点・第 14 地点は、埼玉県入間郡三芳町上富 255-2 他に位置する。調査は、県道さいたま・ふじみ野・所沢線の歩道拡幅に先立ち、古絵図に描かれた溝の痕跡等を確認するための試掘確認調査として、第 13 地点を平成 22 年 12 月 7 日～12 月 16 日、第 14 地点を平成 23 年 2 月 4 日～2 月 23 日にかけて 822.35 m²を実施した。調査の結果、時期不明の溝跡が検出されたため、申請者と協議を行い、遺構が確認された範囲周辺は保護層を設けて、遺構を現状のまま保存することとなった。今回の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号 32-022)の中央北寄りに位置する。

2) 遺構と遺物

遺構は、時期不明の溝跡 1 条が検出され、遺物は陶磁器片が出土した。

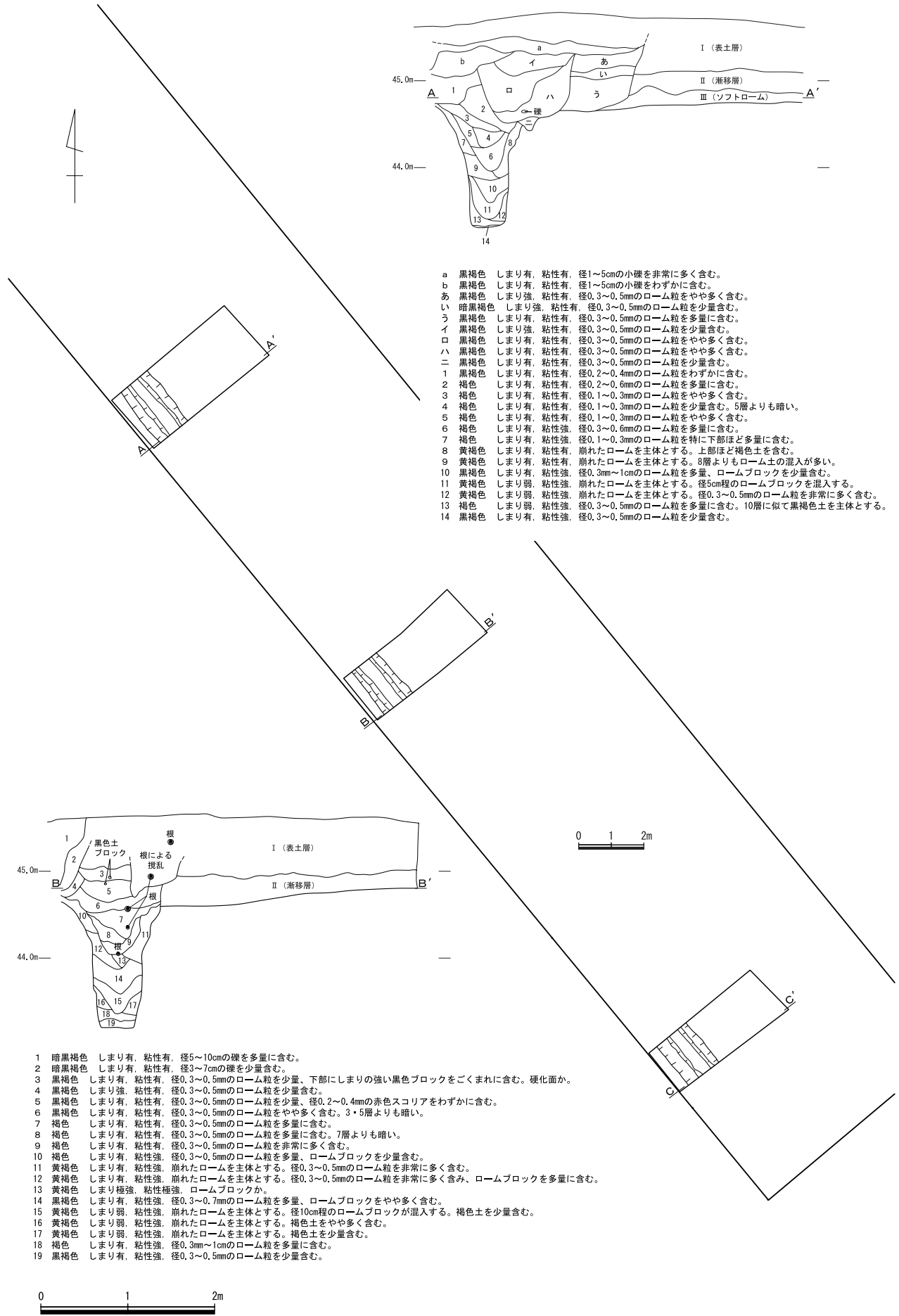
【溝跡(13 地点)】 (第 13・14 図)

断面形は箱形を呈する。規模は上幅 1.1m ×底幅 0.3m ×深さ 1.6m で、さらに調査区外へ延びる。土層を観察すると、埋没していく過程で少なくとも 2 回の掘り返しを行っていることがわかる。また、溝埋没後の堆積土に、一部しまりの強い黒色土ブロックが混入していることから、溝が埋まった後、その場所を突き固めて整地していた可能性が考えられる。水が流れていたと考えられる明瞭な痕跡は確認できなかったが、溝底面には厚さ 2～10cm の黒褐色土が堆積していた。なお、底面の高さは、1 トレンチから 3 トレンチに至るまでに 10cm ずつ下がっている。

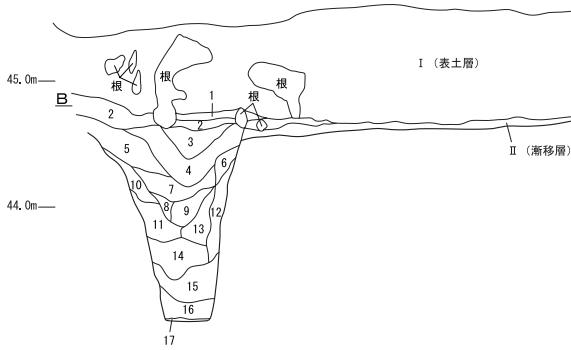
【溝跡(14 地点)】 (第 16・17 図)

断面形は箱形を呈する。規模は上幅 1.1m ×底幅 0.2m ×深さ 1.2m で、さらに調査区外へ延びる。形状や覆土の様相などから、13 地点で検出された溝跡に続くものであると考えられる。土層からは、13 地点と同様、埋没していく過程で少なくとも 2 回の掘り返しを行っていることがわかる。また、今回の調査で漸移層を掘り下げている際、硬化面が広い範囲で確認された。これは 13 地点でも土層上で認められた、しまりの強い黒色土である。検出範囲が溝の位置と重なることから、溝の埋没後、土を突き固めて整地していたことが想定される。なお、道に沿って植えられているケヤキについては、溝のほぼ真上であり、かつ整地層(硬化面)より上層に位置していることから、溝の埋没後、整地を行った後に植えられたものであることがわかる。水が流れていたと考えられる明瞭な痕跡は確認できなかったが、溝底面には厚さ 6～10cm の黒褐色土が堆積していた。底面の高さは、1 トレンチから 2 トレンチに至るまでに 10cm 下がっている。

溝の造られた年代については、時期を特定できる遺物の出土がないため確定はできないが、道に沿って植えられたケヤキの年輪を計測したところ(「第 V 章自然科学分析」参照)、中心部分は西暦 1790～1800 年代頃という結果が得られており、今回検出された溝は、これらのケヤキが植えられるよりも前に造られて埋められていること、現在の道路つまり三富新田開拓における六間道に平行して続いていることなどを考え合わせると、古絵図に描かれている溝、すなわち 1694 年に始まった三富新田開拓に伴う溝である可能性があると考えられる。

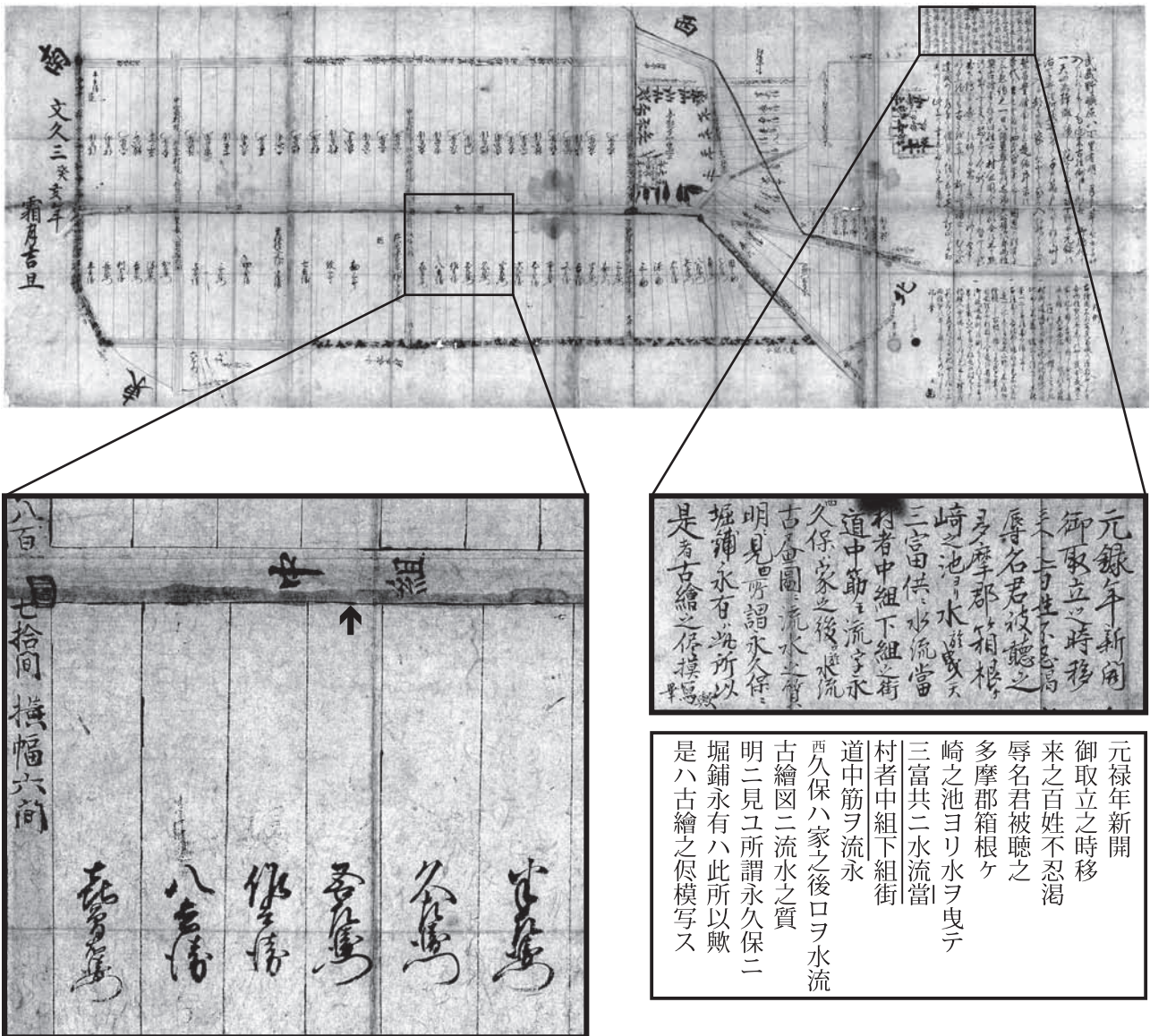


第13図 第13地点遺構全体図(1/160)・遺構土層断面図(1/60)



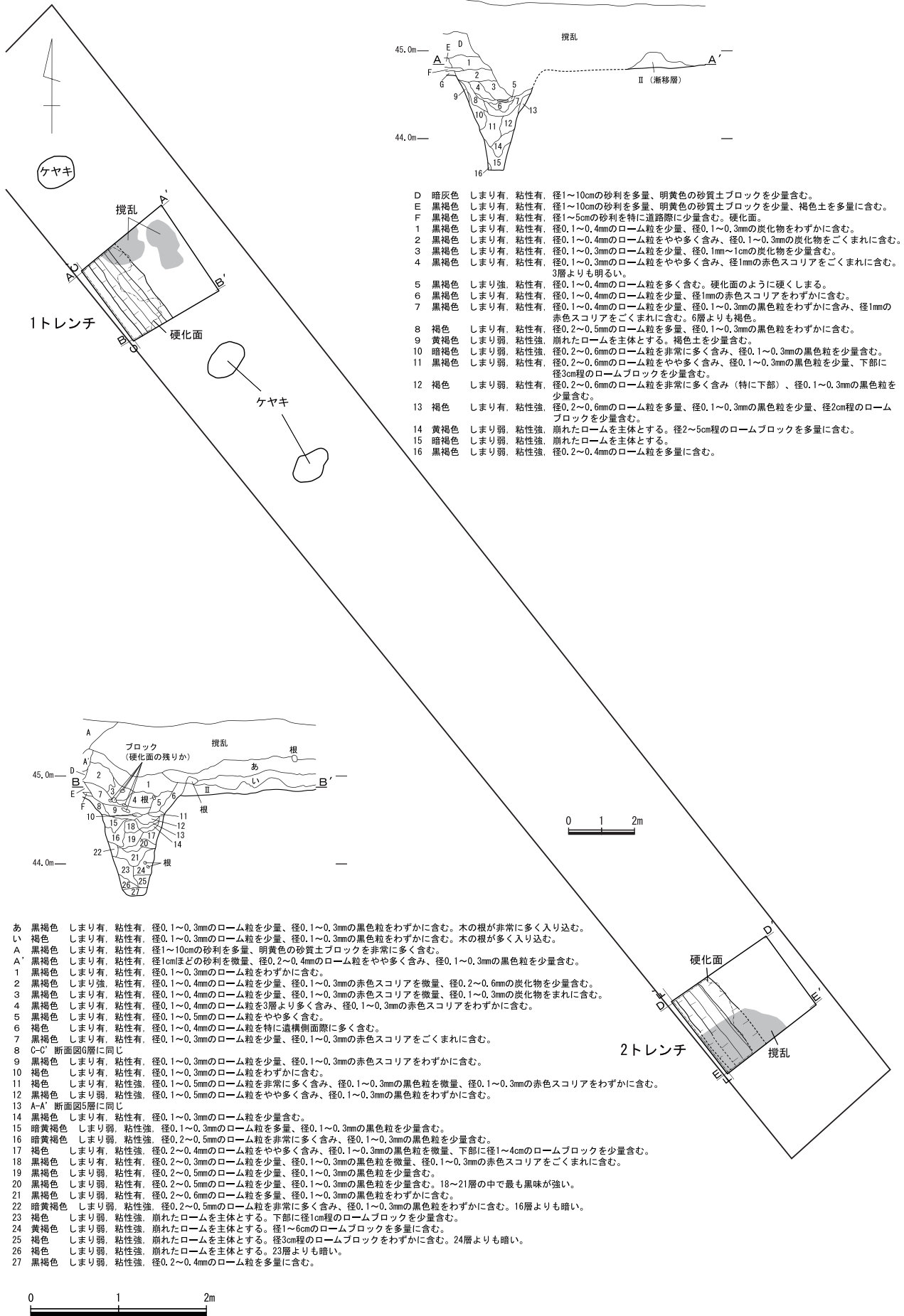
- 1 暗黒褐色 しまり強、粘性有、径0.2~0.4mmのローム粒をやや多く含む。ブロック状にしまりの強い黒色土を含む。硬化面か。
- 2 黒褐色 しまり強、粘性有、径0.2~0.4mmのローム粒を多量に含む。
- 3 黒褐色 しまり強、粘性強、径0.3~0.5mmの赤色スコリアを微量、ロームブロックをやや多く含む。
- 4 褐色 しまり強、粘性強、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを微量、ロームブロックを非常に多く含む。
- 5 黒褐色 しまり有、粘性有、径0.2mm~1cmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 6 褐色 しまり有、粘性有、径0.2mm~1cmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを微量、ロームブロックを少量含む。
- 7 褐色 しまり有、粘性有、径0.2~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 8 褐色 しまり有、粘性有、径0.2~0.4mmのローム粒をわずかに含む。9層よりも暗い。
- 9 褐色 しまり有、粘性有、径0.2~0.4mmのローム粒を少量含む。
- 10 褐色 しまり有、粘性強、径0.2~0.4mmのローム粒を微量、ロームブロックをわずかに含む。
- 11 黄褐色 しまり有、粘性強、径0.2~0.5mmのローム粒を多量に含む。
- 12 黄褐色 しまり有、粘性強、径0.2mm~1cmのローム粒を非常に多く含む、ロームブロックを少量含む。
- 13 黄褐色 しまり有、粘性強、崩れたロームを主体とする。ロームブロックを非常に多く含む。
- 14 黒褐色 しまり有、粘性強、径0.2mm~1cmのローム粒を多量に含む。
- 15 黄褐色 しまり弱、粘性強、崩れたロームを主体とする。径0.2mm~1cmのローム粒を非常に多く含む。
- 16 黄褐色 しまり弱、粘性強、崩れたロームを主体とする。径0.2mm~1cmのローム粒を非常に多く含む。
- 17 黒褐色 しまり有、粘性強、崩れたロームを主体とする。径0.3~0.5mmのローム粒を少量含む。

第14図 第13地点遺構土層断面図(1/60)



第13地点付近の拡大図(矢印が溝を示す)

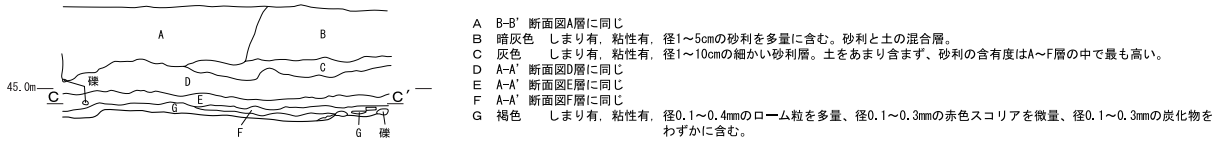
第15図 文久3年「上富村地割絵図」(多福寺所蔵文書)に描かれた溝



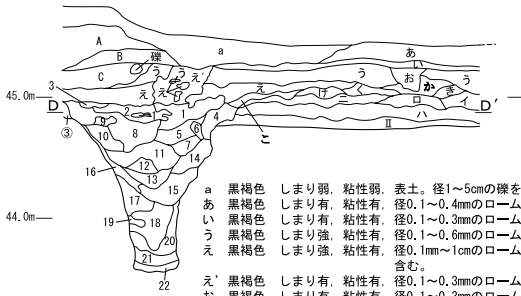
- D 暗灰色 しまり有, 粘性有 径1~10cmの砂利を多量、明黄色の砂質土ブロックを少量含む。
- E 黒褐色 しまり有, 粘性有 径1~10cmの砂利を多量、明黄色の砂質土ブロックを少量、褐色土を多量に含む。
- F 黒褐色 しまり有, 粘性有 径1~5cmの砂利を特に道路際に少量含む。硬化面。
- 1 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの炭化物をわずかに含む。
- 2 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒をやや多く含む、径0.1~0.3mmの炭化物をこまめに含む。
- 3 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1mm~1cmの炭化物を少量含む。
- 4 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒をやや多く含む、径1mmの赤色スコリアをこまめに含む。3層よりも明るい。
- 5 黒褐色 しまり強, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を多く含む。硬化面のように硬くしまる。
- 6 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径1mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 7 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む、径1mmの赤色スコリアをこまめに含む。6層よりも褐色。
- 8 褐色 しまり有, 粘性有 径0.2~0.5mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 9 黄褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。褐色土を少量含む。
- 10 暗褐色 しまり弱, 粘性強 径0.2~0.6mmのローム粒を非常に多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 11 黒褐色 しまり弱, 粘性有 径0.2~0.6mmのローム粒をやや多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、下部に径3cm程のロームブロックを少量含む。
- 12 褐色 しまり弱, 粘性有 径0.2~0.6mmのローム粒を非常に多く含む（特に下部）、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 13 褐色 しまり有, 粘性強 径0.2~0.6mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径2cm程のロームブロックを少量含む。
- 14 黄褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。径2~5cm程のロームブロックを多量に含む。
- 15 暗褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。
- 16 黒褐色 しまり弱, 粘性強 径0.2~0.4mmのローム粒を多量に含む。

- あ 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。木の根が非常に多く入り込む。
- い 褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。木の根が多く入り込む。
- A 黒褐色 しまり有, 粘性有 径1~10cmの砂利を多量、明黄色の砂質土ブロックを非常に多く含む。木の根が多く入り込む。
- A' 黒褐色 しまり有, 粘性有 径1cmほどの砂利を微量、径0.2~0.4mmのローム粒をやや多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 1 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色 しまり強, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを微量、径0.2~0.6mmの炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの炭化物をまれに含む。
- 4 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を3層より多く含む、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 5 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.5mmのローム粒をやや多く含む。
- 6 褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.4mmのローム粒を特に遺構側面に多く含む。
- 7 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをこまめに含む。
- 8 C-C' 断面図6層に同じ
- 9 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 10 褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒をわずかに含む。
- 11 褐色 しまり有, 粘性強 径0.1~0.5mmのローム粒を非常に多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を微量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをわずかに含む。
- 12 黒褐色 しまり弱, 粘性強 径0.1~0.5mmのローム粒をやや多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 13 A-A' 断面図5層に同じ
- 14 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.1~0.3mmのローム粒を少量含む。
- 15 暗黄褐色 しまり弱, 粘性強 径0.1~0.3mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 16 暗黄褐色 しまり弱, 粘性強 径0.2~0.5mmのローム粒を非常に多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 17 褐色 しまり有, 粘性強 径0.2~0.4mmのローム粒をやや多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒を微量、下部に径1~4cmのロームブロックを少量含む。
- 18 黒褐色 しまり有, 粘性有 径0.2~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を微量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをこまめに含む。
- 19 黒褐色 しまり弱, 粘性有 径0.2~0.5mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 20 黒褐色 しまり弱, 粘性有 径0.2~0.5mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。18~21層の中で最も黒味が強い。
- 21 黒褐色 しまり弱, 粘性有 径0.2~0.6mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 22 暗黄褐色 しまり弱, 粘性強 径0.2~0.5mmのローム粒を非常に多く含む、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。16層よりも暗い。
- 23 褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。下部に径1cm程のロームブロックを少量含む。
- 24 黄褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。径1~6cmのロームブロックを多量に含む。
- 25 褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。径3cm程のロームブロックをわずかに含む。24層よりも暗い。
- 26 褐色 しまり弱, 粘性強 崩れたロームを主体とする。23層よりも暗い。
- 27 黒褐色 しまり弱, 粘性強 径0.2~0.4mmのローム粒を多量に含む。

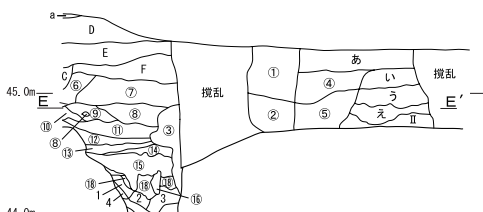
第16図 第14地点遺構全体図(1/160)・遺構土層断面図(1/60)



- A B-B' 断面図A層に同じ
- B 暗灰色 しまり有, 粘性有, 径1~5cmの砂利を多量に含む。砂利と土の混合層。
- C 灰色 しまり有, 粘性有, 径1~10cmの細かい砂利層。土をあまり含まず、砂利の含有度はA~F層の中で最も高い。
- D A-A' 断面図D層に同じ
- E A-A' 断面図E層に同じ
- F A-A' 断面図F層に同じ
- G 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.4mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの炭化物をわずかに含む。



- a 黒褐色 しまり弱, 粘性弱, 表土。径1~5cmの礫を少量含む。
- あ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.4mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.2~0.4mmの炭化物を少量含む。
- い 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.2~0.4mmの炭化物をわずかに含む。土が薄い板状に固まる。
- う 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒を多量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を多量、径0.2mm~2cmの炭化物をやや多く含む。
- え 黒褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~1cmのローム粒を多量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をやや多く含む。径0.2mm~1cmの炭化物をわずかに含む。
- え' 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- お 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.3mmの炭化物を少量含む。
- か 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を多量、径0.1~0.3mmの炭化物をごくまれに含む。
- き 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- く 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの炭化物をごくまれに含む。
- け 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1~0.5mmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの炭化物をごくまれに含む。
- こ 黒褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.3mmの炭化物をごくまれに含む。
- イ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.5mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1mm~1cmの炭化物を少量含む。
- ロ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.5mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.3mmの炭化物をごくまれに含む。径3cm程のロームブロックを少量含む。
- ハ 暗黄褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を多量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径3cm程のロームブロックをやや多く含む。
- 1 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.4mmのローム粒を少量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径4cm程のロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.3mmの炭化物を少量含む。
- 3 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを微量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.5mmの炭化物を少量含む。2層とあわせて硬化面である。
- 4 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.4mmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアをごくまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径0.1~0.5mmの炭化物を多量含む。2層とあわせて硬化面である。
- 5 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。1層よりも黒味が強い。
- 6 暗黒灰色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を少量含む。土の粒径が大きく、全体的にボソボソしている。
- 7 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 8 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~1cmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量、径2~4cmのロームブロックを少量含む。
- 9 6層に同じ
- 10 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.4mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.2mmの赤色スコリアをごくまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 11 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアをごくまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 12 褐色 しまり有, 粘性強, 径0.1~0.3mmのローム粒を微量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアをごくまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 13 褐色 しまり有, 粘性強, 径0.1~0.3mmのローム粒を微量、径0.1~0.2mmの赤色スコリアをごくまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 14 暗黄褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒を少量、径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。径3~5cmのロームブロックを多量に含む。
- 15 褐色 しまり弱, 粘性有, 径0.1~0.6mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。径3~5cmのロームブロックを多量に含む。
- 16 黄褐色 しまり強, 粘性強, 崩れたロームを主体とする。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 17 褐色 しまり弱, 粘性強, 径0.2~0.6mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。
- 18 黒褐色 しまり弱, 粘性強, 径0.2~0.6mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 19 黄褐色 しまり弱, 粘性強, 崩れたロームを主体とする。
- 20 暗褐色 しまり弱, 粘性強, 径0.2~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。下部に径4cm程のロームブロックを少量含む。
- 21 黄褐色 しまり弱, 粘性強, 径0.2~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。下部に径2~5cm程のロームブロックを多量に含む。
- 22 黒褐色 しまり弱, 粘性強, 径0.2~0.4mmのローム粒を多量に含む。



- ① 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.5mm~1cmのローム粒を多量、径3cm程のロームブロックを少量、径0.3mmの炭化物を少量含む。
- ② 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.5mm~1cmのローム粒を非常に多く含む。径3~5cmのロームブロックを多量、径0.3mmの炭化物を少量含む。
- ③ 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.5mm~3cmのロームブロックをやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をわずかに含む。①~③層は比較的新しい攪乱。
- ④ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.2mm~0.4mmのローム粒をやや多く含む。径0.3mmの炭化物をまれに含む。
- ⑤ 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.2mm~0.4mmのローム粒を多量、径1cmのロームブロックを少量、径0.3mmの炭化物を少量含む。
- ⑥ 黒褐色 しまり強, 粘性強, 径1~3cmの砂利を少量、径0.3mm~0.6mmのローム粒を少量、径0.3mmの炭化物をまれに含む。
- ⑦ 黒褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.4mmのローム粒をやや多く含む。径0.3mmの炭化物を少量含む。
- ⑧ 黒褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を多量、径0.3mmの炭化物をまれに含む。径0.1~0.3mmの赤色スコリアをまれに含む。
- ⑨ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を多量、径0.3mmの炭化物をまれに含む。径0.1~0.3mmの赤色スコリアを多量に含む。⑧層よりも暗くしまりが弱い。
- ⑩ 暗黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.3mmのローム粒を少量、径0.3mmの炭化物をまれに含む。
- ⑪ 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を多量、径0.3mmの炭化物をまれに含む。径1cm程のロームブロックを少量含む。
- ⑫ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.5mmのローム粒をやや多く含む。径1cm程のロームブロックをまれに含む。径0.1~0.3mmの赤色スコリアをまれに含む。⑩層よりも暗くしまりが弱い。
- ⑬ 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1cm程のロームブロックをまれに含む。径0.1~0.3mmの赤色スコリアをまれに含む。
- ⑭ 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1~3cm程のロームブロックを多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを少量含む。
- ⑮ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を多量、径1~4cm程のロームブロックを多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを少量含む。
- ⑯ 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を多量、径1cm程のロームブロックを多量に含む。
- ⑰ 暗黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1cm程のロームブロックを多量に含む。
- ⑱ 褐色 しまり強, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1cm程のロームブロックを多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを少量含む。④~⑯までは古い攪乱箇所。
- 1 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.4mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒をまれに含む。
- 2 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.4mmのローム粒をやや多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 3 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.5mmのローム粒を多量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアをまれに含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 4 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.4mmのローム粒を非常に多く含む。径0.1~0.3mmの黒色粒を少量含む。
- 5 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1~4cm程のロームブロックを少量、径0.1~0.3mmの赤色スコリアを少量、径0.1~0.3mmの黒色粒を多量に含む。
- 6 褐色 しまり有, 粘性有, 径0.1mm~0.6mmのローム粒を非常に多く含む。径1~4cm程のロームブロックを多量、径0.1~0.3mmの黒色粒を少量に含む。ロームを主体とする。
- 7 褐色 しまり有, 粘性有, 崩れたロームを主体とし、暗い。
- 8 黄褐色 しまり強, 粘性有, 崩れたロームを主体とする。
- 9 黄褐色 しまり強, 粘性有, 崩れたロームを主体とする。8層よりも明るい。
- 10 褐色 しまり有, 粘性有, 崩れたロームを主体とし、暗い。
- 11 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径0.2mm~0.4mmのローム粒を多量に含む。
- あ 黒褐色 しまり有, 粘性有, 径1cm程の砂利を少量、0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.3mmの炭化物を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒を少量含む。
- い 黒褐色 しまり弱, 粘性有, 0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒をまれに含む。
- う しまり有, 粘性有, 0.1~0.3mmのローム粒を少量、径0.2~0.4mmの黒色粒を少量含む。あ~え層の中で最も黒味が強い。
- え 褐色 しまり有, 粘性強, 0.1~0.3mmのローム粒を多量、径0.2~0.4mmの黒色粒を少量、径1cm程のロームブロックを少量含む。

第17図 第14地点遺構土層断面図(1/60)

4. 三富開拓地割遺跡第 15 地点の調査

1) 調査の概要

第 15 地点は、埼玉県入間郡三芳町上富 1439-1 に位置する。当該地は 1454-1 と併せて、(仮称)近世開拓史資料館建設予定地として、県有地となっている。調査は、以前から当該地において視認されていたすり鉢状の窪みについて、遺構の範囲確認及び位置を記録する試掘確認調査として、平成 23 年 2 月 20 日～3 月 13 日にかけて 77㎡を実施した。

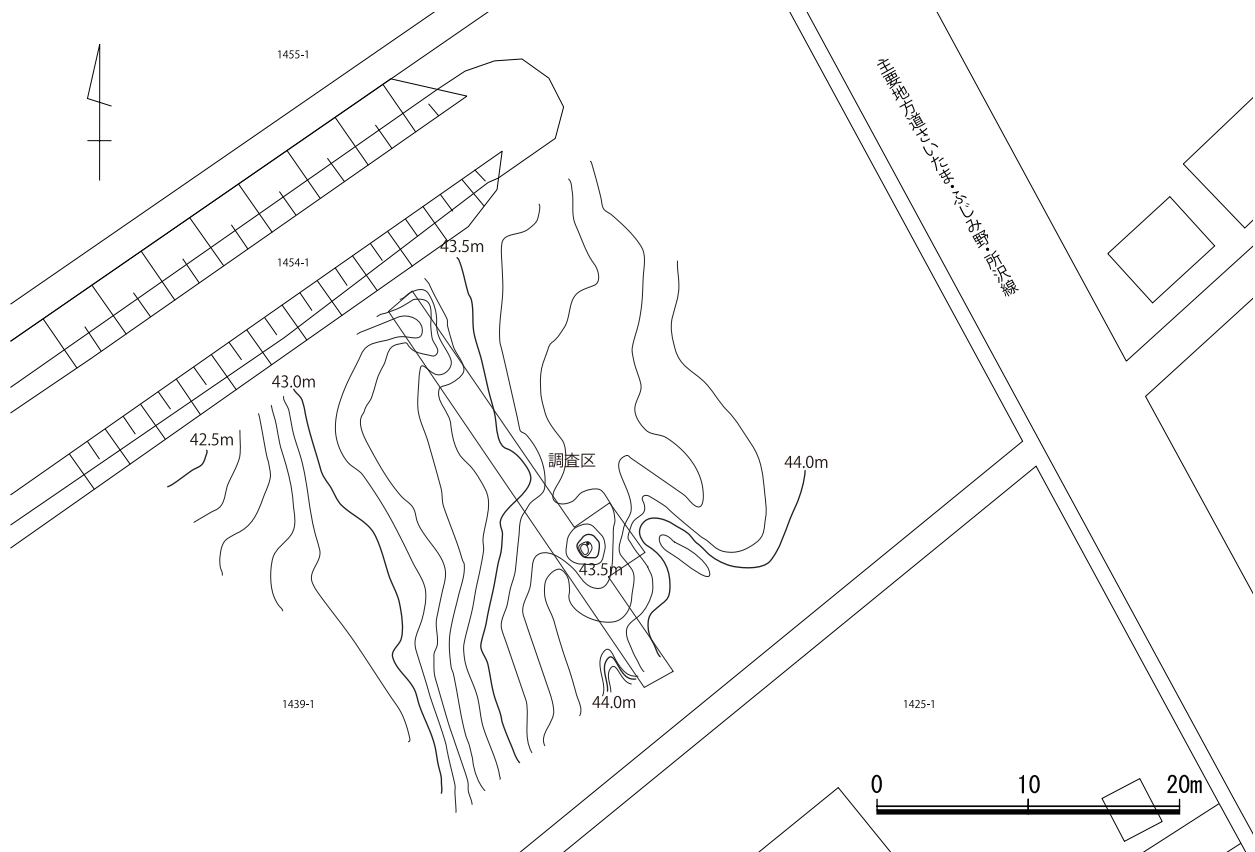
調査にあたっては、当該地全体に繁茂していた下草を除去した後、(株)CUBIC 製「遺構くん Cubic」によるデジタル等高線測量を行い、現況を記録した。その後、すり鉢状の窪み及びその周囲に調査区を設定し、人力により表土層(腐植土層)を除去し遺構の平面確認を行った。また、下草除去の際、すり鉢状の窪みのほぼ中央に石造物の一部が露出しているのが確認されたため、その内容を明らかにする目的で、調査区の一部について掘削を行った。

調査の結果、すり鉢状の窪みについては井戸跡であると推定され、また、その覆土中に埋設された形で「水神宮」の銘を持つ石造物 1 基を確認した。遺構及び石造物については、元位置を記録した後埋め戻しを行い、現状保存とした。今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号 32-022)の中央北寄りに位置する。

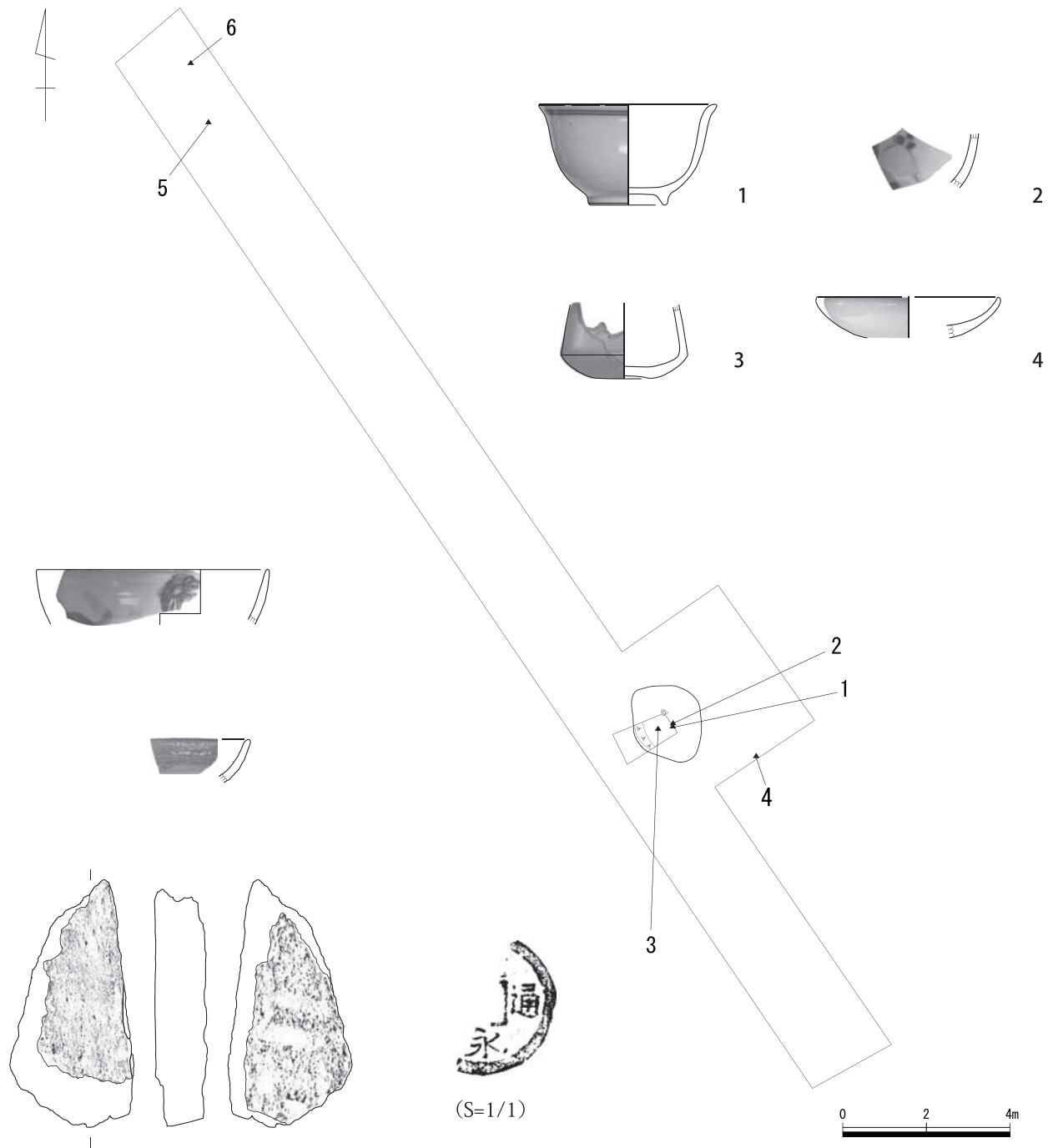
2) 調査区周辺地形(第 18 図)

デジタル等高線測量による調査区周辺の現況地形を概観すると、標高 44 m を最高点として、東から西へ下方傾斜していることが伺える。これは、地元で「サガヤマ」と呼ばれる埋没谷による傾斜地形を現しており、その比高差は約 1 m ある。井戸跡と推定されるすり鉢状の窪みは、このサガヤマの傾斜地形の落ち際に位置している。

なお、調査区周辺のさらに西の畑を望むと、対岸の傾斜地形を確認することができる。



第 18 図 調査区位置及び現況面等高線図(1/500)



第19図 遺物分布図(1/150)・出土遺物実測図(1/3)

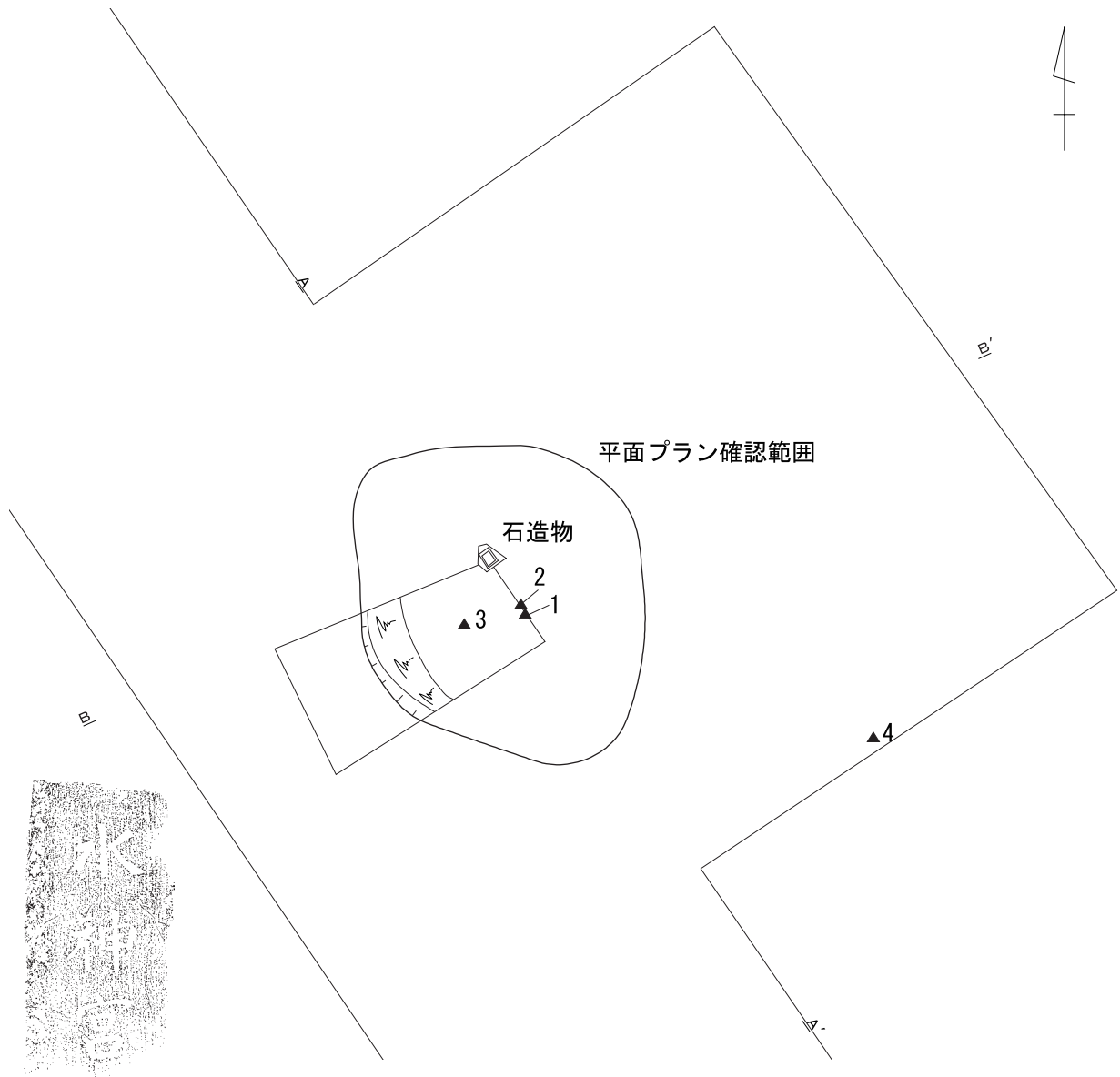
3) 遺構と遺物(第19図)

遺構は時期不明の井戸跡1基が検出され、遺物は「水神宮」の銘を持つ石造物1基、陶磁器片、古銭等が出土した。

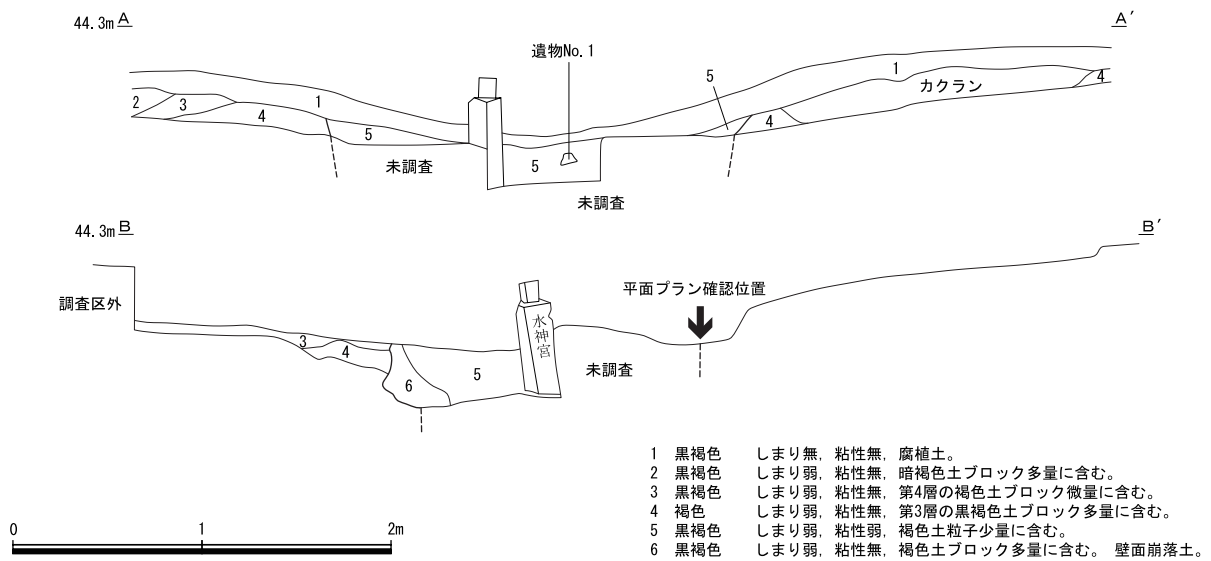
【井戸跡】 (第20図)

腐植土を除去したところ、現地表面から70cmの深さで平面プランが確認された。平面形態は2.1m×1.8mの楕円形を呈する。断面形態は、部分的な確認にとどまるが、ほぼ垂直に掘り込まれている。

井戸跡の覆土はしまりの弱い黒褐色土で、「水神宮」の銘を持つ石造物を包含しながら、下層に続いている。井戸跡は自然埋没ではなく、人為的に埋め戻され、その過程で石造物が埋設されたと考えられる。



石造物拓本(文字部分)



第 20 図 遺構全体図・土層断面図(1/40)

また、井戸跡の周囲において、上屋施設や硬化面など井戸跡に伴う痕跡も精査したが、確認することができなかった。

【遺物】 (第 19・20 図)

「水神宮」の銘を持つ石造物は、上下2段の角柱状で高さ 60cm、砂岩製である。下段は刻銘された面以外は表面が欠損・風化しており、年号等は確認されなかった。

1～3は井戸跡覆土中より出土した。湯呑茶碗(1)や擦りガラス器(3)は近・現代のものとみられることから、井戸の埋没時期は近・現代であることが推測される。

また、表土層である腐植土中より、陶磁器類だけでなく板石塔婆片や寛永通宝、砥石等が出土した。

第V章 自然科学分析

はじめに

パリノ・サーヴェイ株式会社

街路樹のケヤキを伐採した付近では、道路下より近世・近代の溝が検出されている。その年代に関する資料を得ることを目的として、伐採されたケヤキの年輪数を計測する。

1. 試料

試料は、2010年に伐採された街路樹(ケヤキ)の輪切材1点である。根元に近い部分であり、上面(幹側)は、長径89.8cm、短径72.1cmで、厚さは約30cmである。

下面(根側)は、根に近く、年輪が湾曲していること、伐採時のチェーンソーによる伐採痕が多数残り、段差も大きいことから、研磨と年輪数の計測には不適と判断し、上面で研磨と計測を実施する。

2. 方法

上面は、一部に伐採時に生じた5mm以上の段差が残っている。段差部分は研磨に時間がかかることから、段差を避けた上で、最も半径の大きい方向を測線として設定する。ポリッシャーに専用紙ヤスリを装着し、#60、#80、#120、#200の順に研磨を行った後、表面を洗浄し、乾燥させる。

ルーペを用いて年輪の位置を確認し、10本ごとにピンを立てる。ヌカ目になるなど、ルーペでの観察が困難な場所は、マイクロスコープによる観察を実施する。

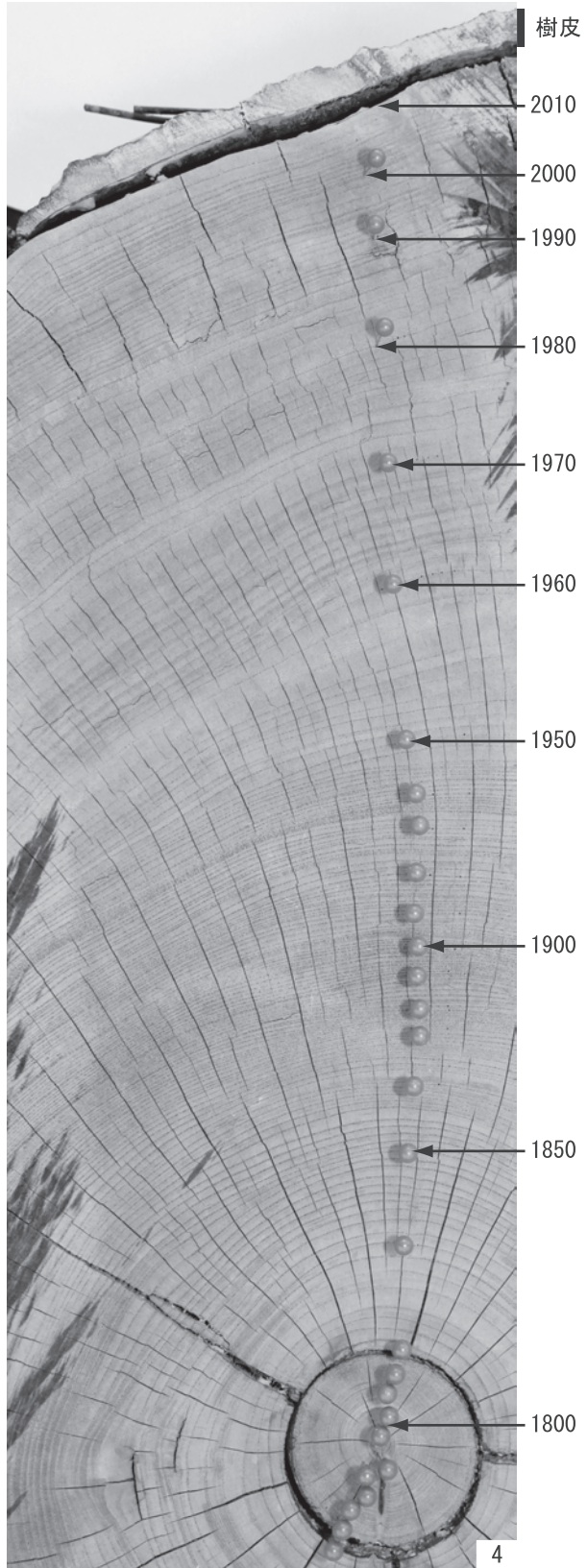
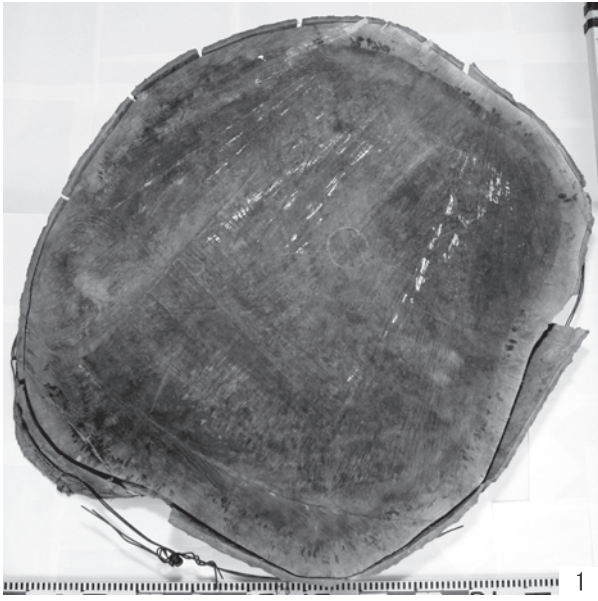
3. 結果・考察

ケヤキの年輪数を計測した結果、216本が確認された。80年前頃と180年前頃に成長が悪くヌカ目になっている部分がある。この部分では、年輪が読みづらく、正確に計測できていない可能性がある。このことを考慮して、ケヤキの樹齢はおおよそ215～220年と考えられる。周辺に近世・近代の溝があること、街路樹であることから、ある程度成長した状態のケヤキを植栽したことも考慮に入れる必要がある。

年輪をみると、中心部分は西暦1790～1800年頃である。その後、西暦1820～1830年頃と西暦1930～1940年頃に成長が悪く、ヌカ目になっている部分が認められる。西暦1950～2000年頃にかけては成長が安定しており、比較的年輪が広い年が多い。西暦2000年前後に年輪の狭い年が7年ほど認められる。

西暦1820～1830年頃のヌカ目は、時期的にいわれる「江戸時代の小氷期」の寒冷な気候が影響している可能性がある。西暦2000年前後にみられる成長の悪い年は、街路樹として、周囲の環境変化、根張りなどの土地条件等が影響している可能性が考えられる。

年輪計測の状況



- 1. 研磨前の上面
- 2. 研磨作業風景
- 3. 研磨後の上面
- 4. 年輪計測結果



上永久保遺跡第 2 地点（2 次）調査前全景



上永久保遺跡第 2 地点（2 次）完掘



上永久保遺跡第 2 地点（2 次）完掘



上永久保遺跡第 2 地点（2 次）埋め戻し



中東遺跡第 4 地点 表土剥ぎ



中東遺跡第 4 地点 調査風景



中東遺跡第 4 地点 完掘



中東遺跡第 4 地点 埋め戻し

写真図版 2

平成 21 年度俣埜遺跡 L 地点, 三芳唐沢遺跡



俣埜遺跡 L 地点 調査前全景



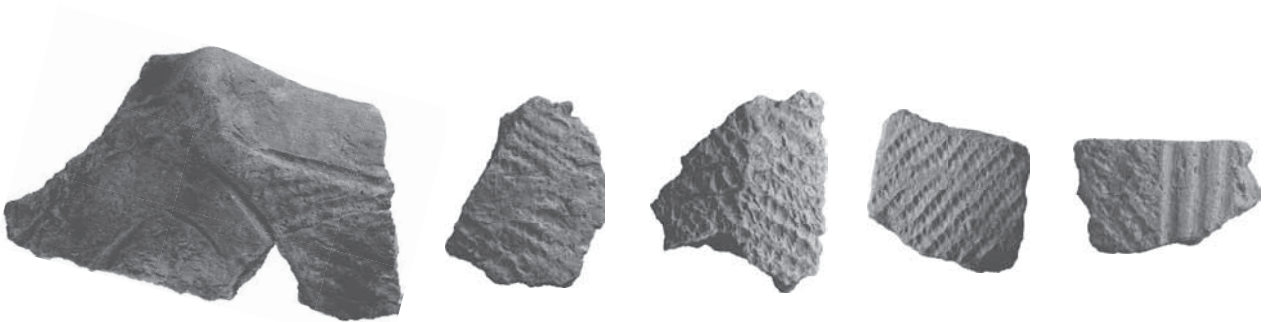
俣埜遺跡 L 地点 表土剥ぎ



俣埜遺跡 L 地点 完掘



俣埜遺跡 L 地点 埋め戻し



俣埜遺跡 L 地点 出土遺物 (1/2)



三芳唐沢遺跡 調査前全景



三芳唐沢遺跡 表土剥ぎ



三芳唐沢遺跡 完掘



三芳唐沢遺跡 埋め戻し



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 調査前全景



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 表土剥ぎ



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 溝跡確認状況



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 調査風景



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 完掘



三富開拓地割遺跡第 10・第 11 地点 埋め戻し



三富開拓地割遺跡第 12 地点 調査前全景



三富開拓地割遺跡第 12 地点 表土剥ぎ



三富開拓地割遺跡第 12 地点 完掘



三富開拓地割遺跡第 12 地点 埋め戻し



新開遺跡 調査前全景



新開遺跡 完掘



中東遺跡第 5 地点 調査前全景



中東遺跡第 5 地点 表土剥ぎ



中東遺跡第 5 地点 完掘



中東遺跡第 5 地点 埋め戻し



上永久保遺跡第 3 地点 調査前全景



上永久保遺跡第 3 地点 調査風景



上永久保遺跡第 3 地点 完掘



上永久保遺跡第 3 地点 埋め戻し



俣埜遺跡 M 地点 調査前全景



俣埜遺跡 M 地点 完掘



俣埜遺跡 N 地点 調査前全景



俣埜遺跡 N 地点 完掘



俣埜遺跡第 N 地点 炉穴確認状況



俣埜遺跡 N 地点 炉穴遺物出土状況



俣埜遺跡 N 地点 出土遺物 (1/2)



古井戸山遺跡 調査前全景



古井戸山遺跡 完掘



古井戸山遺跡 調査前全景



古井戸山遺跡 完掘



古井戸山遺跡 調査前全景



古井戸山遺跡 完掘



俣埜遺跡 O 地点 調査前全景



俣埜遺跡 O 地点 調査風景



俣埜遺跡 O 地点 集石確認状況



俣埜遺跡 O 地点 集石確認状況



俣埜遺跡 O 地点 溝跡確認状況



俣埜遺跡 O 地点 遺構確認状況



俣埜遺跡 O 地点 溝跡完掘



俣埜遺跡 O 地点 石器集中確認状況



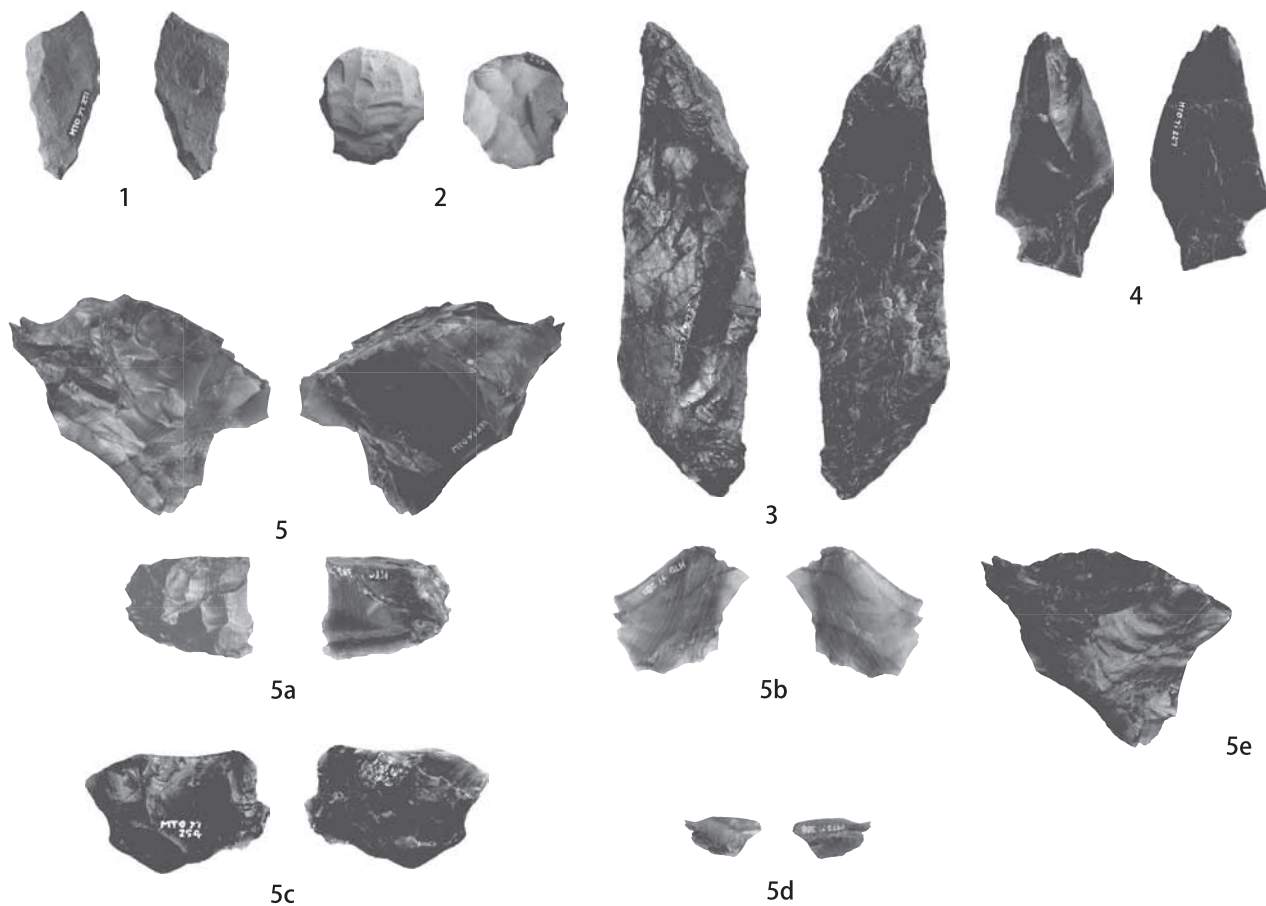
俣埜遺跡 O 地点 完掘



俣埜遺跡 O 地点 埋め戻し



俣埜遺跡 O 地点 出土土器 (1/2)



俣埜遺跡 O 地点 出土石器 (3/4)



藤久保東第三遺跡第 6 地点 調査前全景



藤久保東第三遺跡第 6 地点 調査全景



藤久保東第三遺跡第 6 地点 完掘



藤久保東第三遺跡第 6 地点 完掘



三富開拓地割遺跡第 13 地点 調査前全景



三富開拓地割遺跡第 13 地点 表土剥ぎ



三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡確認状況



三富開拓地割遺跡第 13 地点 調査風景



三富開拓地割遺跡第 13 地点 完掘



三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡堆積状況



三富開拓地割遺跡第 13 地点 溝跡堆積状況



三富開拓地割遺跡第 14 地点 調査前全景



三富開拓地割遺跡第 14 地点 表土剥ぎ



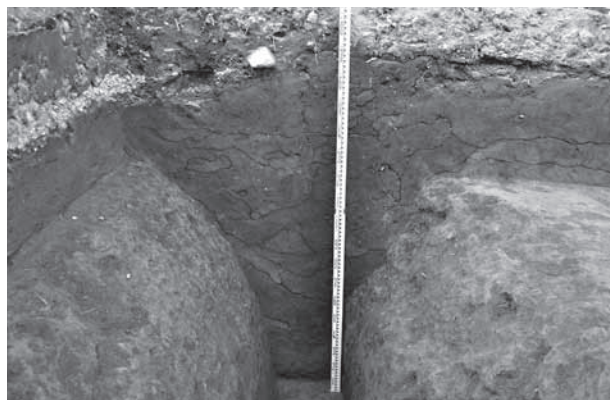
三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡確認状況



三富開拓地割遺跡第 14 地点 調査風景



三富開拓地割遺跡第 14 地点 完掘



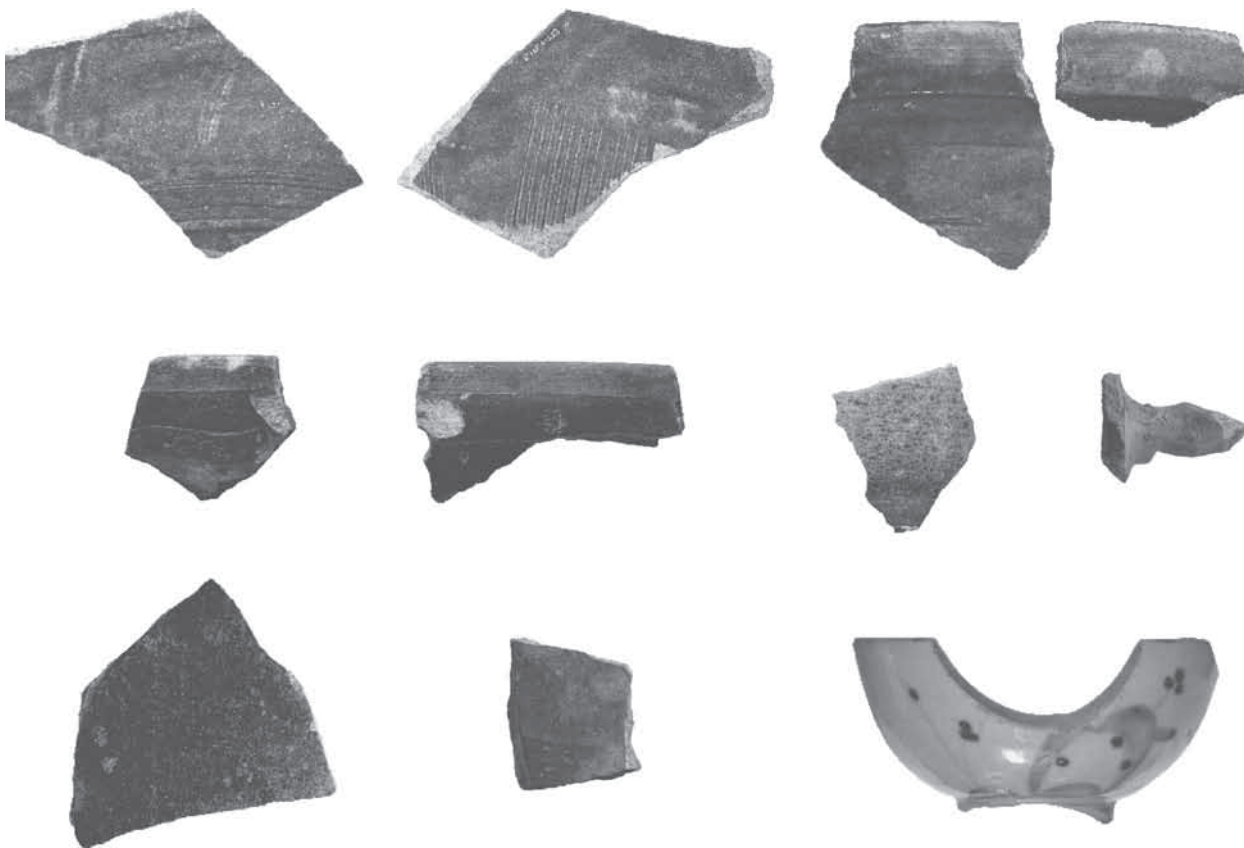
三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡堆積状況



三富開拓地割遺跡第 14 地点 遺物出土状況



三富開拓地割遺跡第 14 地点 溝跡堆積状況



三富開拓地割遺跡第 14 地点 出土遺物 (1/2)



本村北遺跡 F 地点 調査前全景



本村北遺跡 F 地点 表土剥ぎ



本村北遺跡 F 地点 完掘



本村北遺跡 F 地点 埋め戻し



北原遺跡第 8 地点 調査前全景



北原遺跡第 8 地点 表土剥ぎ



北原遺跡第 8 地点 完掘



北原遺跡第 8 地点 埋め戻し



藤久保東第三遺跡第 7 地点 調査風景



藤久保東第三遺跡第 7 地点 完掘



藤久保東第三遺跡第 7 地点 完掘



藤久保東第三遺跡第 7 地点 土層断面



本村北遺跡 G 地点 調査前全景



本村北遺跡 G 地点 表土剥ぎ



本村北遺跡 調査風景



本村北遺跡 G 地点 完掘



本村北遺跡G 地点 住居跡確認状況



本村北遺跡G 地点 住居跡確認状況



生出窪北遺跡第 3 地点 調査前全景



生出窪北遺跡第 3 地点 表土剥ぎ



生出窪北遺跡第 3 地点 調査風景



生出窪北遺跡第 3 地点 完掘



生出窪北遺跡第 3 地点 土層断面



生出窪北遺跡第 3 地点 埋め戻し



境松遺跡第 2 地点 調査前全景



境松遺跡第 2 地点 表土剥ぎ



境松遺跡第 2 地点 調査風景



境松遺跡第 2 地点 完掘



浅間後遺跡 (近接地) 調査前全景



浅間後遺跡 (近接地) 表土剥ぎ



浅間後遺跡 (近接地) 完掘



浅間後遺跡 (近接地) 埋め戻し



三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査前全景



三富開拓地割遺跡第 15 地点 石造物確認状況



三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査風景



三富開拓地割遺跡第 15 地点 完掘



三富開拓地割遺跡第 15 地点 完掘



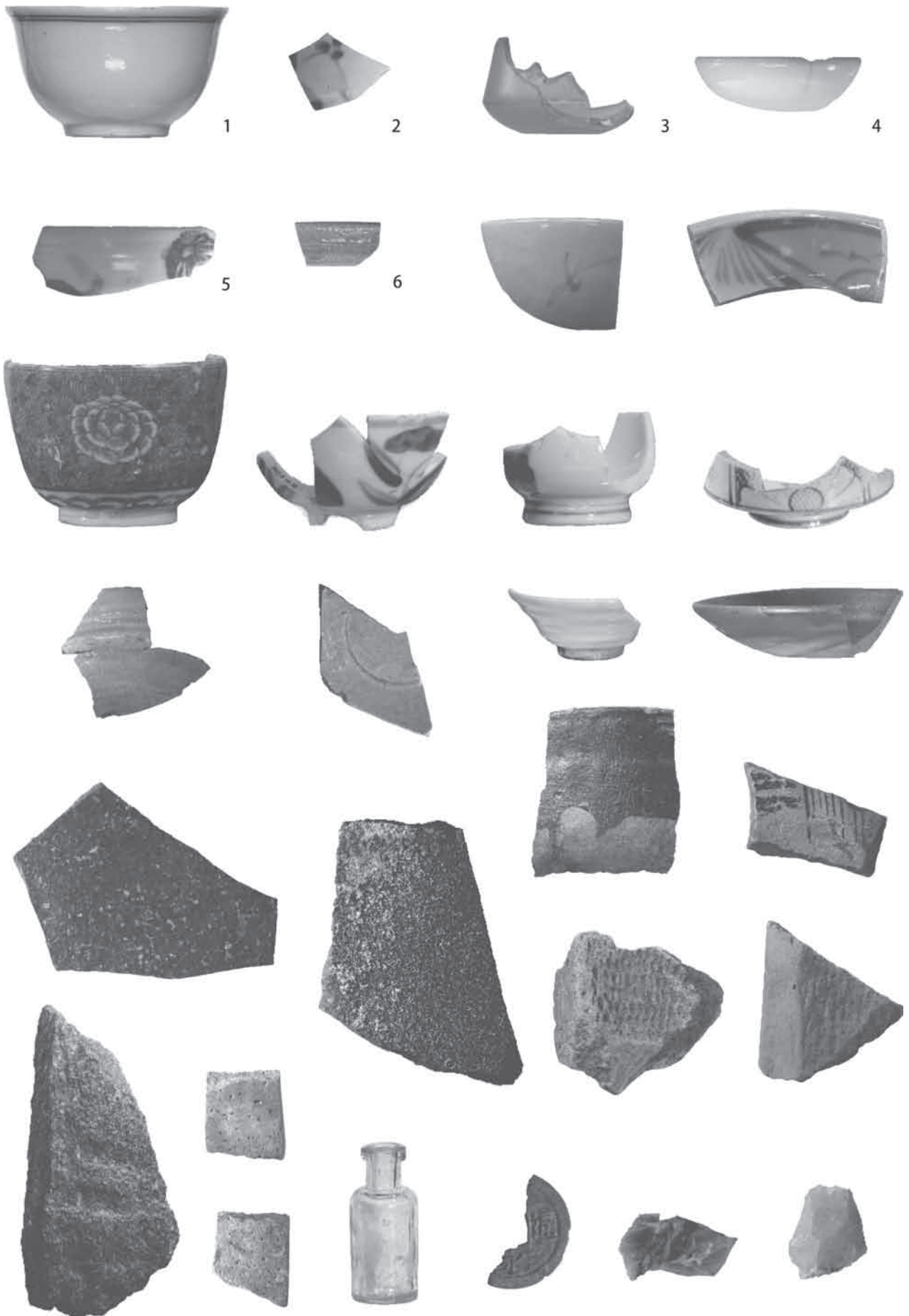
三富開拓地割遺跡第 15 地点 土層断面



三富開拓地割遺跡第 15 地点 埋め戻し



三富開拓地割遺跡第 15 地点 調査後風景



三富開拓地割遺跡第 15 地点 出土遺物 (1/2 最下段右から 3 点 1/1)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうさほうこくしよ						
書名	町内遺跡発掘調査報告書	巻次	Ⅷ				
副書名							
巻名							
シリーズ名	三芳町埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	39						
編著者名	大久保 淳／越前谷 理						
編集機関	三芳町教育委員会						
所在地	〒 354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1						
発行年月日	2013 年(平成 25 年)3 月 16 日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号				
またのいせきおーちてん 俣埜遺跡 O 地点	ふじくぼ 藤久保 378-6 他	113247	32-009	35° 50' 15" 139° 32' 11"	20100929 20101019	175	集会所建設
さんどめかいたくちわりいせき 三富開拓地割遺跡 だいじゅうちてん・だいじゅういちちてん 第 10 地点・第 11 地点	かみとめ 上富 11-5,13-3 他	113247	32-022	35° 50' 09" 139° 29' 59"	20090728 20090731	772	歩道整備
さんどめかいたくちわりいせき 三富開拓地割遺跡 だいじゅうさんちてん・だいじゅうよんちてん 第 13 地点・第 14 地点	かみとめ 上富 255-2 他	113247	32-022	35° 49' 41" 139° 30' 18"	20101207 20101216 20110204 20110223	822	歩道整備
さんどめかいたくちわりいせき 三富開拓地割遺跡 だいじゅうごちてん 第 15 地点	かみとめ 上富 1439-1	113247	32-022	35° 50' 03" 139° 29' 58"	20120220 20120313	77	保存整備
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項
俣埜遺跡 O 地点	キャンプ跡 集落跡	旧石器時代 縄文時代中期		Ⅶ層下部石器集中 1、 Ⅶ層下部礫群 1、 集石 3 基、 時期不明溝跡 1	ナイフ形石器、縄 文時代中期土器片 等		
三富開拓地割遺跡 第 10 地点・第 11 地点	近世開拓遺構	近世以降		時期不明溝跡 1	遺物なし		
三富開拓地割遺跡 第 13 地点・第 14 地点	近世開拓遺構	近世以降		時期不明溝跡 1	陶磁器片等		
三富開拓地割遺跡 第 15 地点	近世開拓遺構	近世以降		時期不明井戸跡 1	陶磁器片等		

三芳町埋蔵文化財報告 39

町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ

発行日 平成 25 年 3 月 16 日

編集機関 三芳町教育委員会

入間郡三芳町大字藤久保 1100-1

Tel.049-258-0019

発行 三芳町教育委員会

印刷 深志印刷株式会社